

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業

学生アンケート調査集計結果

- ※本集計結果は、大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業事後評価学生アンケート調査実施要領（平成26年12月8日大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会評価部会。以下「実施要領」という。）に基づき実施した各採択大学の調査結果を参考のために大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会事務局（以下「事務局」という。）において集計したものである。
- ※本集計結果は、本事業で開設された「英語による授業のみで学位が取得できるコース（以下「英語コース」という。）」に在籍している学生の中から、実施要領に基づき各採択大学が事務局に提出した「学生アンケート調査対象者リスト」に掲載された一部の学生を対象とした調査結果を集計しているため、英語コースに在籍している全学生の状況を表したものではない。
- ※本集計結果の数値データについては、各採択大学の調査結果を事務局がそのまま集計したものであり、「%」については、小数点第二位を四捨五入して掲載しているため、「%」の計が100にならない場合がある。
- ※本集計結果の自由記入設問の主な意見については、各採択大学の調査結果から事務局が抽出し、日本語に翻訳して掲載している。
- ※本集計結果は、大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会に報告の上、公表するものである。

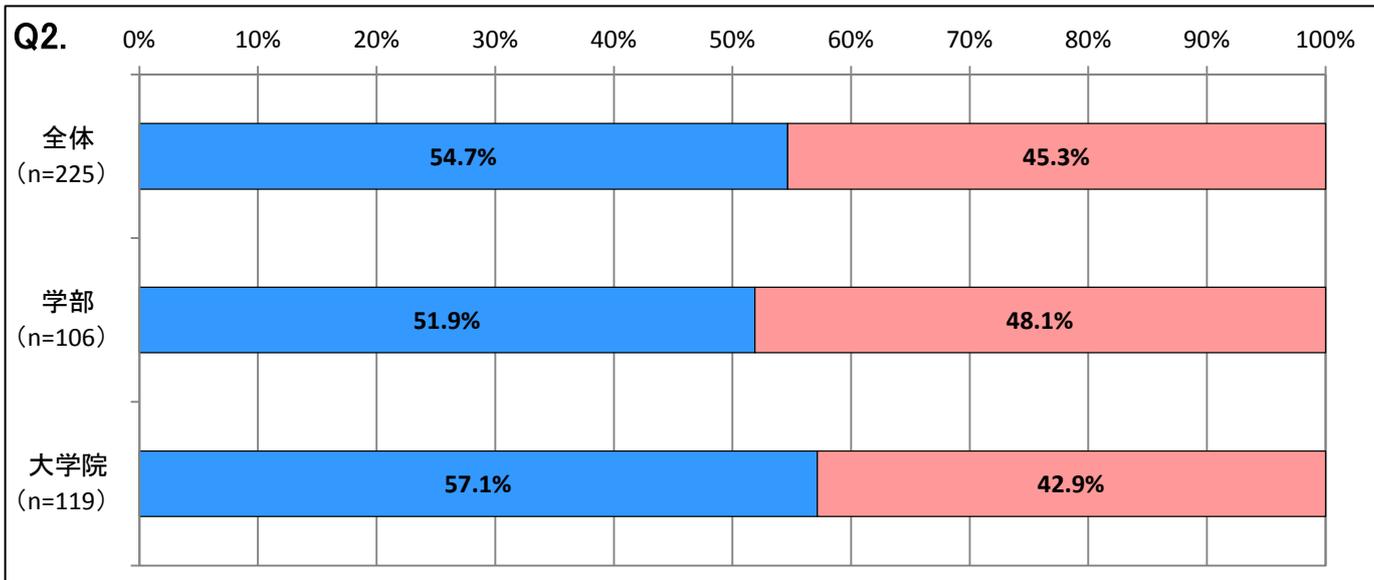
対象者数	259
回答者数	225
回答率	86.9%

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会
独立行政法人日本学術振興会
平成27年3月

【あなたのことについて】

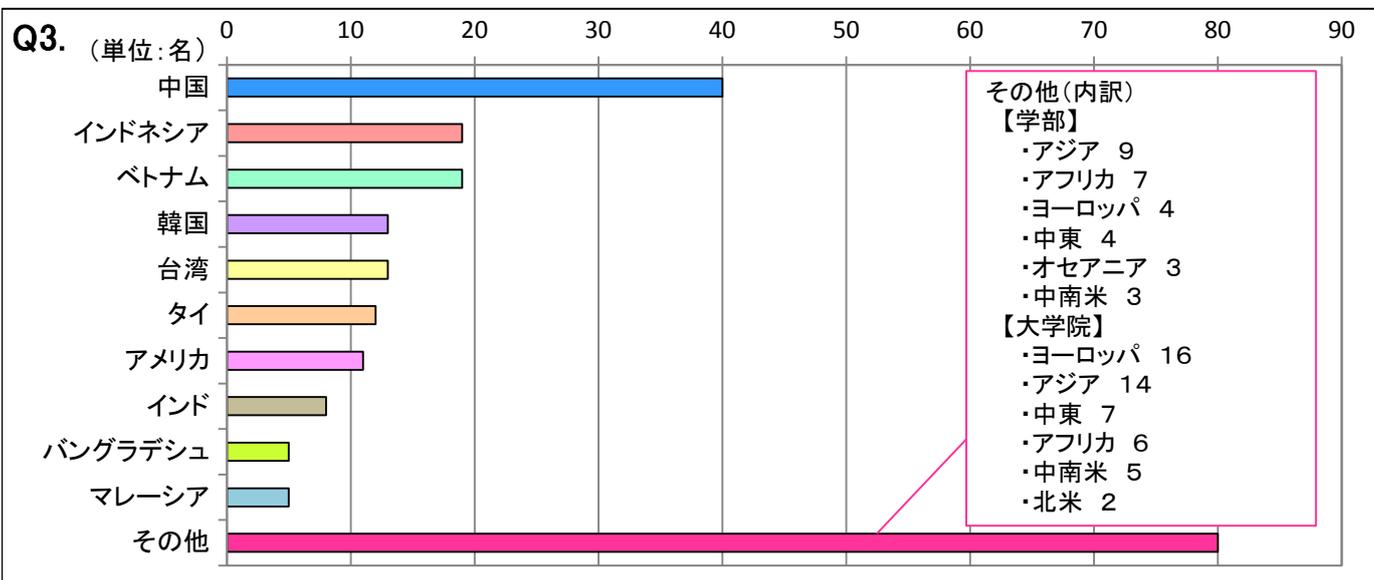
Q2.性別はどちらですか。

上段:人数 下段:%	全体	男性	女性
全体	225 100.0%	123 54.7%	102 45.3%
学部	106 100.0%	55 51.9%	51 48.1%
大学院	119 100.0%	68 57.1%	51 42.9%



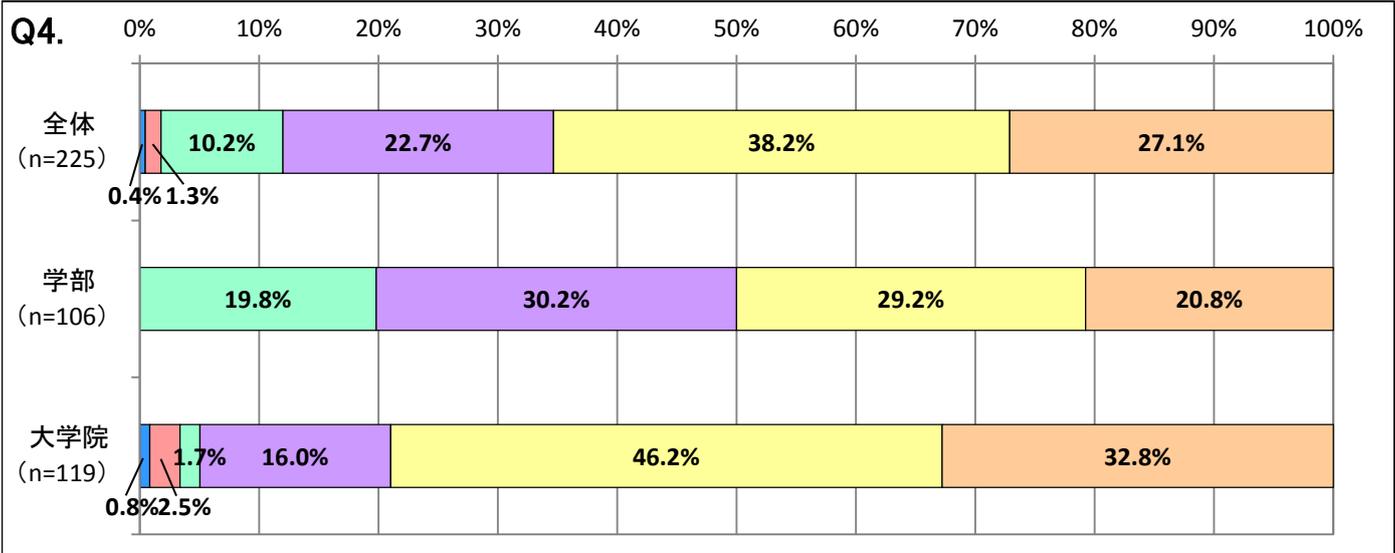
Q3.出身国・地域はどこですか。

上段:人数 下段:%	全体	中国	インド ネシア	ベトナム	韓国	台湾	タイ	アメリカ	インド	バングラ デシュ	マレーシア	その他
全体	225 100.0%	40 17.8%	19 8.4%	19 8.4%	13 5.8%	13 5.8%	12 5.3%	11 4.9%	8 3.6%	5 2.2%	5 2.2%	80 35.6%
学部	106 100.0%	15 14.2%	12 11.3%	6 5.7%	11 10.4%	11 10.4%	6 5.7%	8 7.5%	4 3.8%	0 0.0%	3 2.8%	30 28.3%
大学院	119 100.0%	25 21.0%	7 5.9%	13 10.9%	2 1.7%	2 1.7%	6 5.0%	3 2.5%	4 3.4%	5 4.2%	2 1.7%	50 42.0%



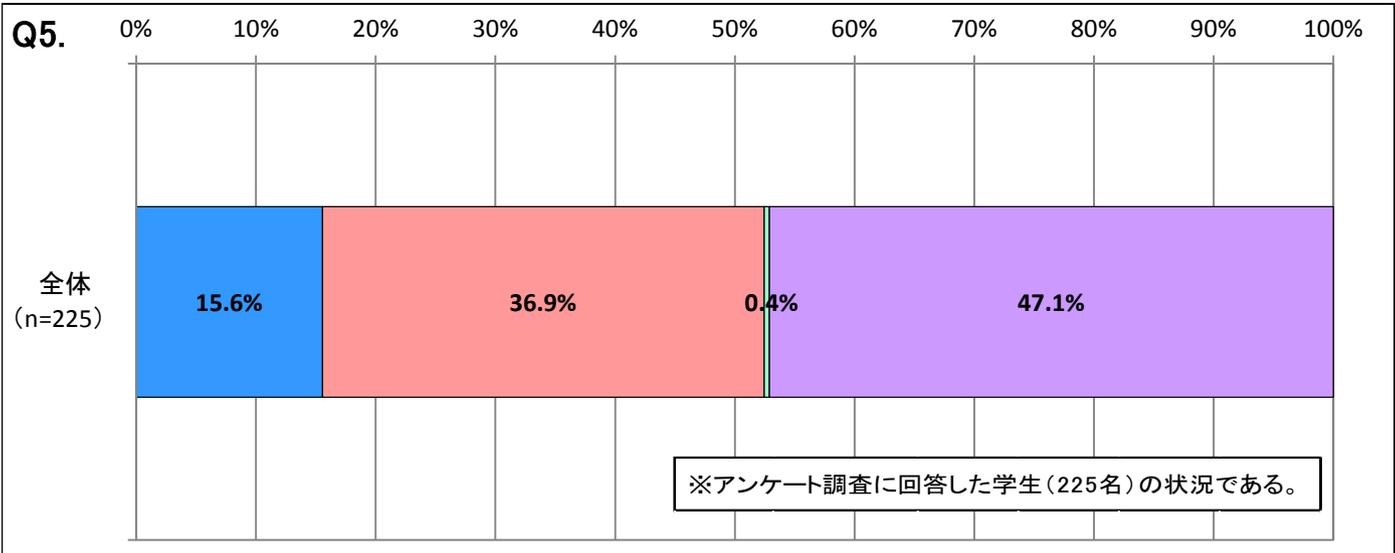
Q4.入学時期はいつですか。

上段:人数 下段:%	全体	2009(平成21) 年4月～ 2010(平成22) 年3月	2010(平成22) 年4月～ 2011(平成23) 年3月	2011(平成23) 年4月～ 2012(平成24) 年3月	2012(平成24) 年4月～ 2013(平成25) 年3月	2013(平成25) 年4月～ 2014(平成26) 年3月	2014(平成26) 年4月～	その他
全体	225	1	3	23	51	86	61	0
	100.0%	0.4%	1.3%	10.2%	22.7%	38.2%	27.1%	0.0%
学部	106	0	0	21	32	31	22	0
	100.0%	0.0%	0.0%	19.8%	30.2%	29.2%	20.8%	0.0%
大学院	119	1	3	2	19	55	39	0
	100.0%	0.8%	2.5%	1.7%	16.0%	46.2%	32.8%	0.0%



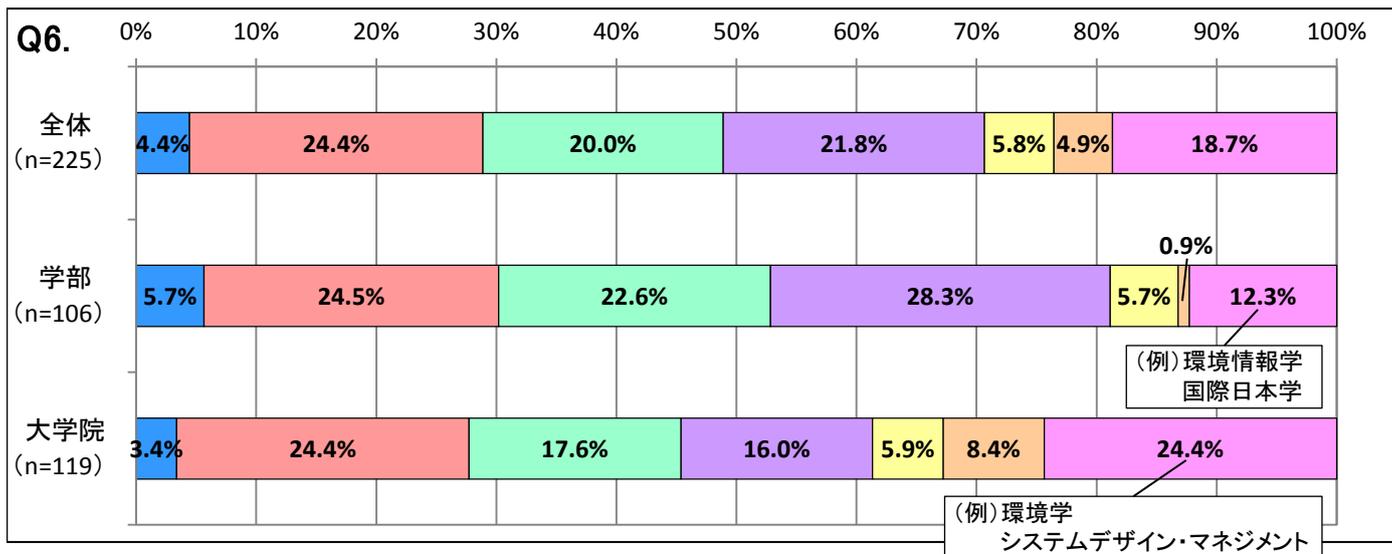
Q5.在籍している日本の大学ではどの課程で学んでいますか。

上段:人数 下段:%	全体	大学院博士課程・ 博士後期課程	大学院修士課程・ 博士前期課程	専門職学位課程	学部正規課程	その他
全体	225	35	83	1	106	0
	100.0%	15.6%	36.9%	0.4%	47.1%	0.0%
学部	106	0	0	0	106	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
大学院	119	35	83	1	0	0
	100.0%	29.4%	69.7%	0.8%	0.0%	0.0%



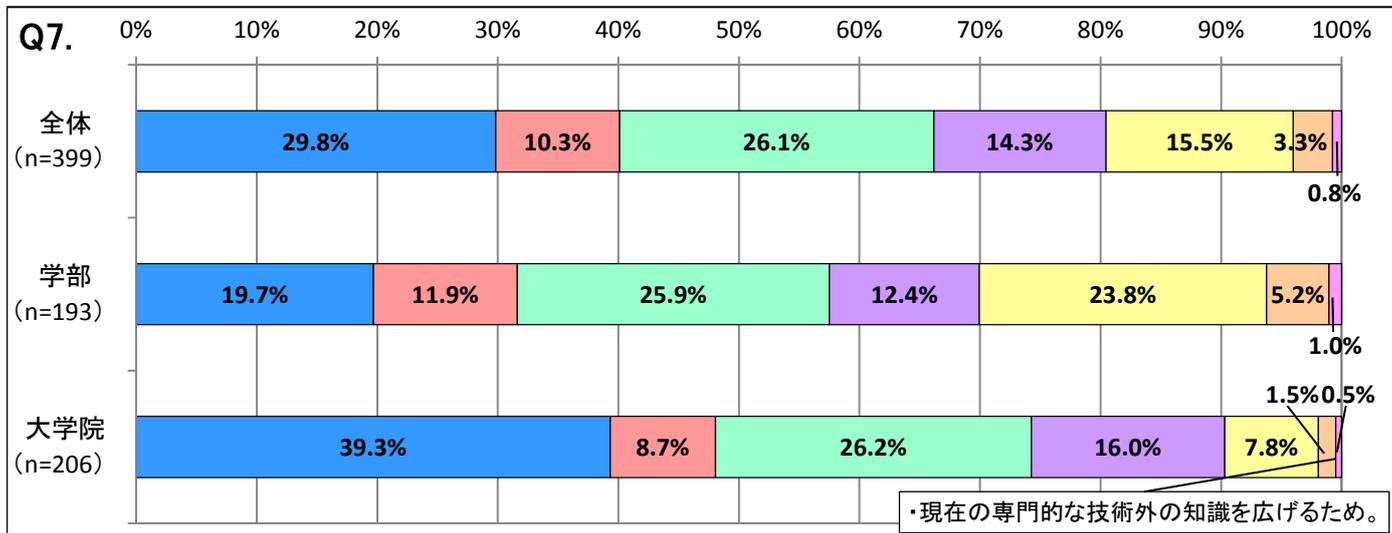
Q6.在籍している日本の大学における専攻分野は何ですか。

上段:人数 下段:%	全体	人文科学 (文学、歴史、哲学等)	社会科学 (法律、政治、経済、社会学等)	理学 (数学、物理、化学、生物学等)	工学 (機械工学、電子工学、応用化学等)	農学 (農業経済、農芸、獣医畜産、水産学等)	医・歯・薬学	その他
全体	225 100.0%	10 4.4%	55 24.4%	45 20.0%	49 21.8%	13 5.8%	11 4.9%	42 18.7%
学部	106 100.0%	6 5.7%	26 24.5%	24 22.6%	30 28.3%	6 5.7%	1 0.9%	13 12.3%
大学院	119 100.0%	4 3.4%	29 24.4%	21 17.6%	19 16.0%	7 5.9%	10 8.4%	29 24.4%



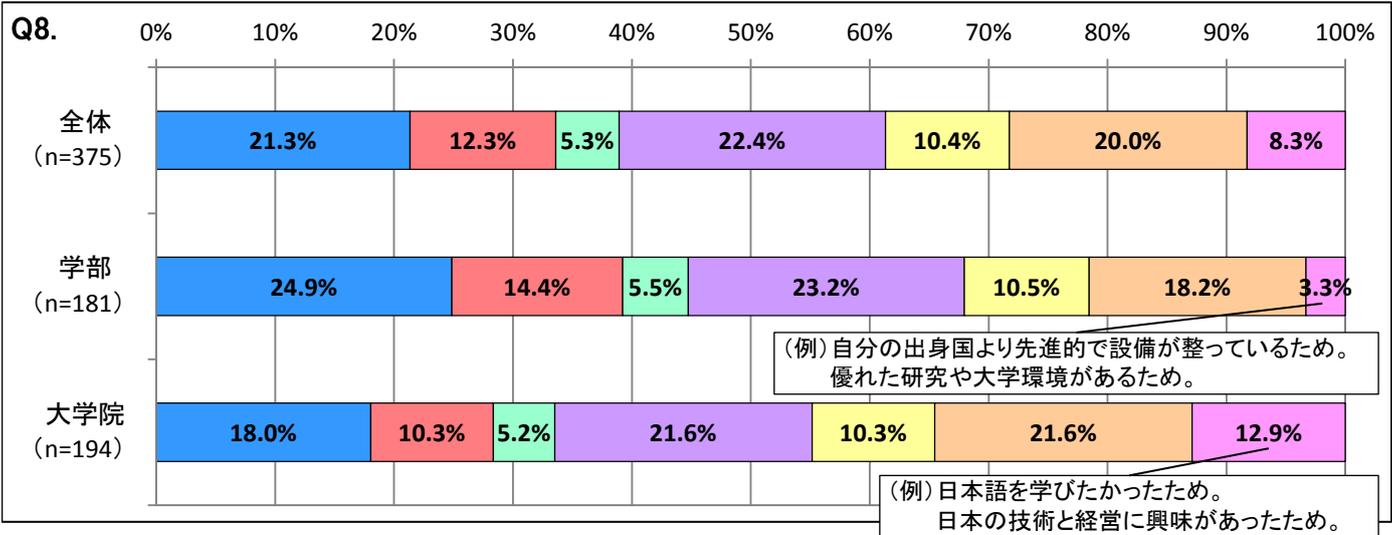
Q7.学位取得のほかに留学の目的は何ですか。(2つまで複数回答可)

上段:人数 下段:%	全体	専門知識・技術を身につけるため	国際的な企業に就職するため	国際的な人脈作りや国際的な考え方を身につけるため	良い環境で研究を行うため	多様な語学の能力を高めるため	出身国の大学に魅力を感じないため	その他
全体	399 100.0%	119 29.8%	41 10.3%	104 26.1%	57 14.3%	62 15.5%	13 3.3%	3 0.8%
学部	193 100.0%	38 19.7%	23 11.9%	50 25.9%	24 12.4%	46 23.8%	10 5.2%	2 1.0%
大学院	206 100.0%	81 39.3%	18 8.7%	54 26.2%	33 16.0%	16 7.8%	3 1.5%	1 0.5%



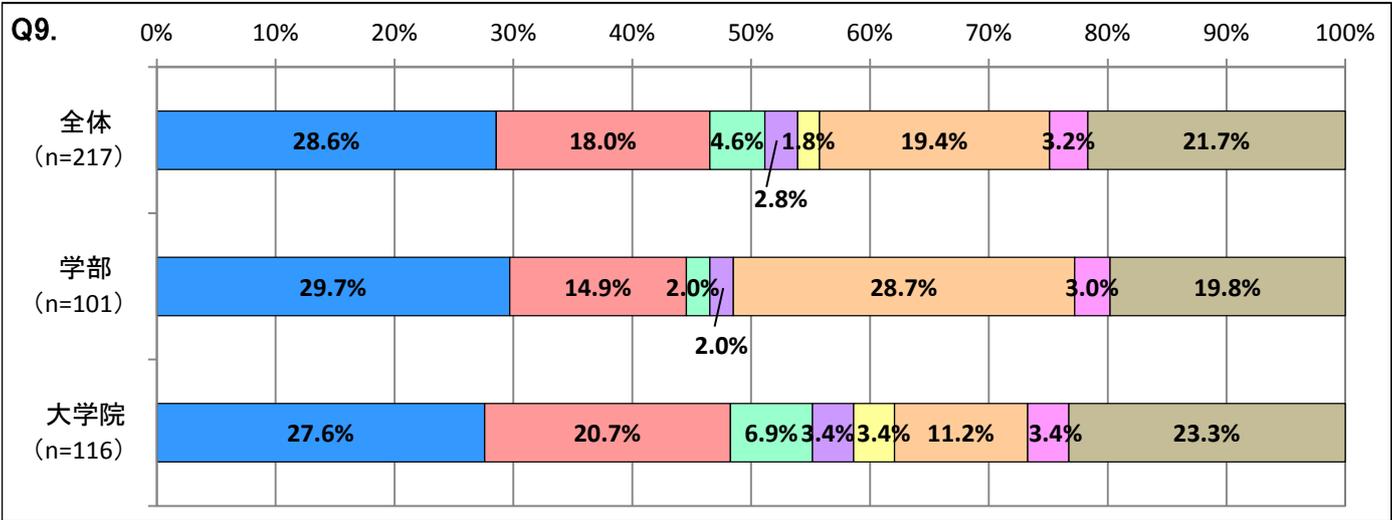
Q8.日本を留学先として選んだ理由は何ですか。(2つまで複数回答可)

上段:人数 下段:%	全体	日本で生活した かったため	日本のサブカル チャー(漫画・ア ニメ、ファッション 等)に興味があ ったため	地理的に 近いため	英語による授業 のみで学位が 取得できるコー スがあったため	日本で働く、 もしくは 日本企業に就職 したかったため	奨学金を 得られたため	その他
全 体	375 100.0%	80 21.3%	46 12.3%	20 5.3%	84 22.4%	39 10.4%	75 20.0%	31 8.3%
学 部	181 100.0%	45 24.9%	26 14.4%	10 5.5%	42 23.2%	19 10.5%	33 18.2%	6 3.3%
大学院	194 100.0%	35 18.0%	20 10.3%	10 5.2%	42 21.6%	20 10.3%	42 21.6%	25 12.9%



Q9.大学を卒業後の予定は何ですか。

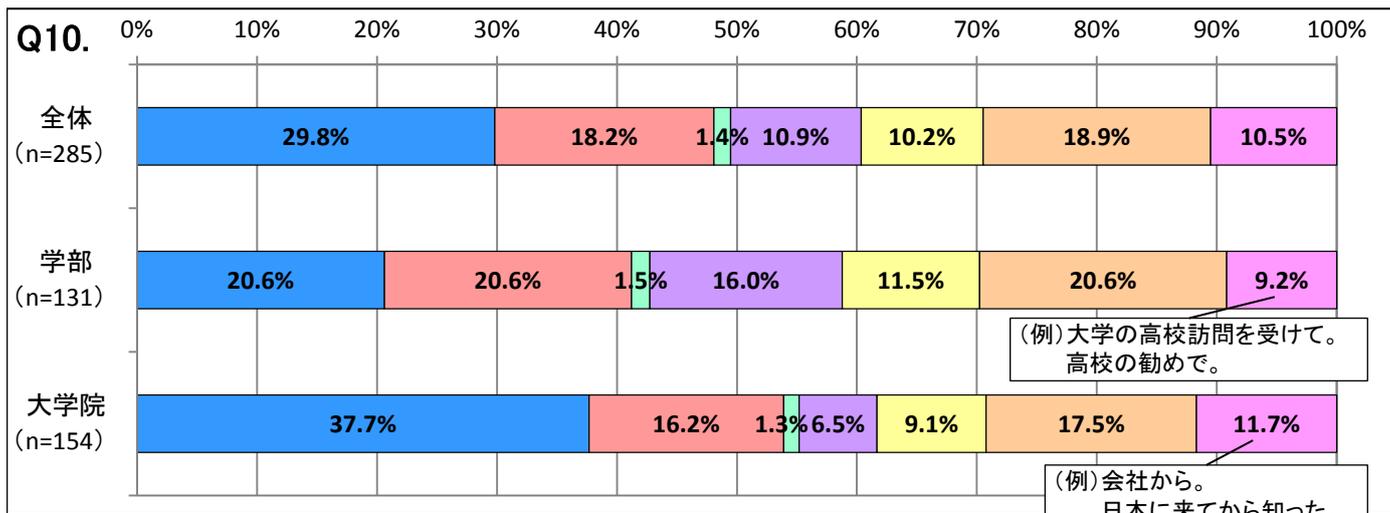
上段:人数 下段:%	全体	日本において 進学希望	日本において 就職希望	出身国におい て進学希望	出身国におい て日本企業に 就職希望	出身国におい て日本企業以 外に就職希望	日本・ 出身国以外で 進学希望	日本・ 出身国以外で 就職希望	まだ決めて いない
全 体	217 100.0%	62 28.6%	39 18.0%	10 4.6%	6 2.8%	4 1.8%	42 19.4%	7 3.2%	47 21.7%
学 部	101 100.0%	30 29.7%	15 14.9%	2 2.0%	2 2.0%	0 0.0%	29 28.7%	3 3.0%	20 19.8%
大学院	116 100.0%	32 27.6%	24 20.7%	8 6.9%	4 3.4%	4 3.4%	13 11.2%	4 3.4%	27 23.3%



【英語による授業のみで学位が取得できるコースについて】

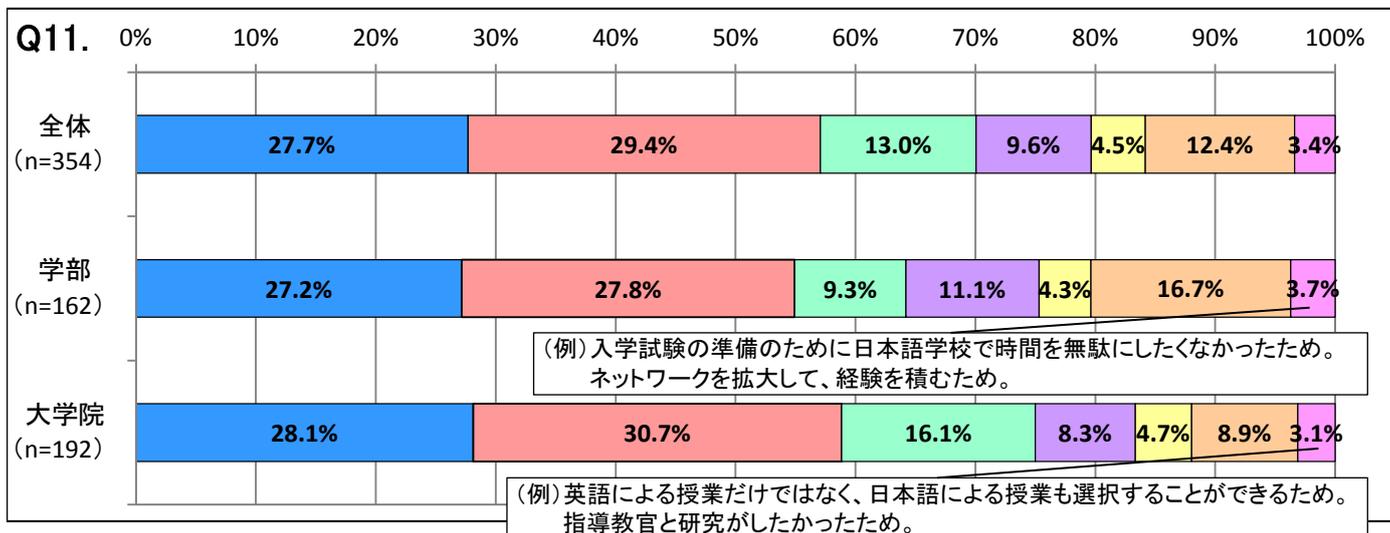
Q10.日本に留学する前に、どのような方法で本コース(英語による授業のみで学位が取得できるコース)の情報を取得しましたか。(2つまで複数回答可)

上段:人数 下段:%	全体	日本の大学のホームページを検索して	グローバル30のホームページを検索して	出身国に設置している日本の大学の海外事務所を訪問して	出身国で開催している日本留学フェアに参加して	出身国の学校や教員に相談して	親戚や友人に相談して	その他
全体	285 100.0%	85 29.8%	52 18.2%	4 1.4%	31 10.9%	29 10.2%	54 18.9%	30 10.5%
学部	131 100.0%	27 20.6%	27 20.6%	2 1.5%	21 16.0%	15 11.5%	27 20.6%	12 9.2%
大学院	154 100.0%	58 37.7%	25 16.2%	2 1.3%	10 6.5%	14 9.1%	27 17.5%	18 11.7%



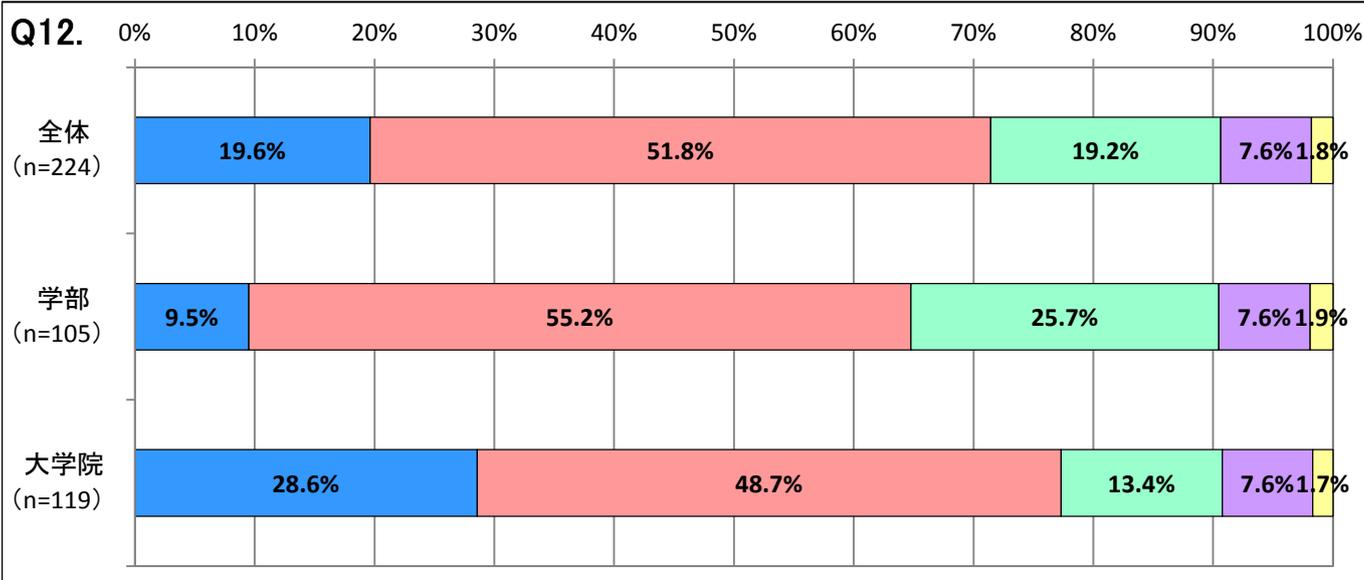
Q11.本コースを選んだ理由は何ですか。(2つまで複数回答可)

上段:人数 下段:%	全体	日本の大学の教育や研究が優れていると思ったため	関心の高い専門分野があったため	国際的な教育研究活動実績を有する教員からの指導が受けられるため	日本で働く、もしくは日本企業に就職したかったため	出身国の教員や友人に勧められたため	他の国も考えていたが、学力や費用等の条件が一番合ったため	その他
全体	354 100.0%	98 27.7%	104 29.4%	46 13.0%	34 9.6%	16 4.5%	44 12.4%	12 3.4%
学部	162 100.0%	44 27.2%	45 27.8%	15 9.3%	18 11.1%	7 4.3%	27 16.7%	6 3.7%
大学院	192 100.0%	54 28.1%	59 30.7%	31 16.1%	16 8.3%	9 4.7%	17 8.9%	6 3.1%



Q12.本コースの授業について、質の高い授業が行われていると思いますか。

上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	224 100.0%	44 19.6%	116 51.8%	43 19.2%	17 7.6%	4 1.8%
学部	105 100.0%	10 9.5%	58 55.2%	27 25.7%	8 7.6%	2 1.9%
大学院	119 100.0%	34 28.6%	58 48.7%	16 13.4%	9 7.6%	2 1.7%



Q13.Q12の回答理由を自由に記入してください。

主な意見

○優れた点等

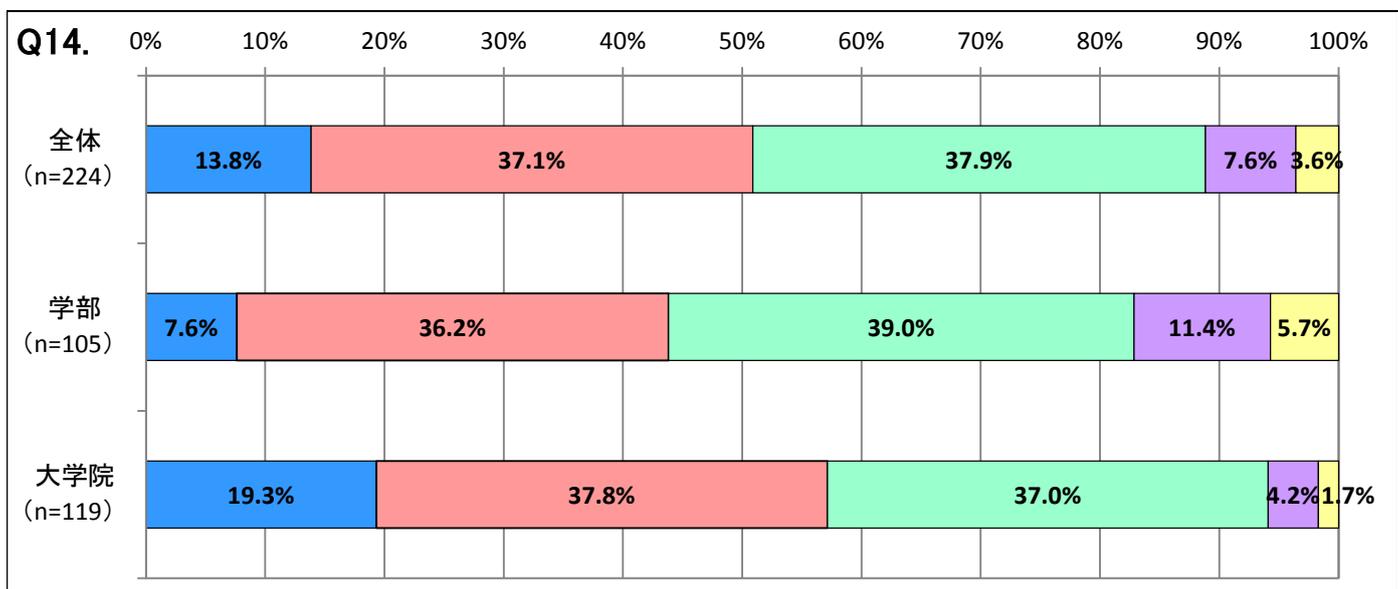
1	本コースでの教育は既に国際標準が適用されている。
2	日本の教育システム全てが良く計画され、体系付けられていることに驚いた。
3	クラスのサイズやカリキュラムの設計が適切で、教授の授業への熱意も感じられ、質の高い教育を受けている。
4	実践的な学習方法、参加型の授業が行われている。
5	プレゼンテーションや課題におけるグループワーク、授業における学生同士や学生と教師間の交流の実施などの先端的な教育方法で行われている。
6	質は高く、日本のシステムとアメリカのシステム両方に従っており、多くの国際的なコミュニティとの交流があり、国際的な教育が受けられる。
7	日本だけでなく、英国、カナダ、その他の国からの優れた教授がいる。
8	より実用的指向なので教育の質は非常に高い。研究グループにおいて毎週実施するゼミは非常に役立っている。
9	全て良く構成されていて、シラバスは十分で、先生も教える課題について多くを知っている。
10	コースは非常に規則正しく、課題などは非常にやりがいがある。
11	大学に入学して、知識と技術が非常に向上した。母国と比較して良い学習及び研究環境がある。
12	コースが理論的であるだけでなく実践的な経験を含んでいる。
13	全ての教授は専門分野で深い知識を備えていて、優れた教育技術を持っている。また、学生は十分なライティング及びプレゼンテーション技術を習得でき、国際的なチームで働く重要な技能を身につけることができる。

○不十分な点・改善点等

1	日本人教授による英語の授業の質があまり良くない場合がある。
2	日本人の教授の何人かは上手く英語で会話することができるが、英語が上手くない人が多い。何も日本語を知らない留学生は、情報について行くのに問題がある。
3	より国際的な教授陣にしなければならない。
4	講師は高い英語力だけでなく、英語で教えるための意欲と関心（モチベーション）の両方を持ち合わせる必要がある。
5	外国人教授（特に英語のネイティブスピーカー）は、彼らのスキルではなく、単に外国人であるということに基づいて雇われているようだ。教授は自分の学生を奨励したり挑戦させたりしない。
6	英語による授業科目数が少なく、授業の選択の幅が小さい。
7	プログラムができてまだ間もないので、コースワークに関して問題がある。
8	日本語による講義を幾つか取った結果、日本語の講義の方がカリキュラム内容や難易度が高かった。
9	教授は非常に優れているが、カリキュラムがあまりに古く感じられ、教授の能力がフルに活用されていない。
10	実行されている教授法と大学環境は、まだ非常に「伝統的な日本の大学」スタイルで、受講した授業のほとんどは教科書由来だ。
11	日本独自のもの、文化、考え方や国際的な考え方を学ぶことができるが、スキル、ディベート力、思考能力など、実際に役に立つものを身に付けることがあまりできない。
12	授業成績の評価方法は出席より成果や努力によるべきだ。
13	試験のほとんどは比較的容易で、AやA+をとるために知識、理解や技術がそれほど必要ではない。
14	学生のレベルは非常に低い。学生をプログラムに入れるために必死に受け入れる。
15	香港の教育の質の方が、教授と学生が学習や研究において非常に努力するため、比較的良い。
16	もし学生が日本語を知らなければ、このプログラムは全く上手くいかないだろう。

Q14.本コースのカリキュラム編成や単位互換制度は、国際通用性があると思いますか。

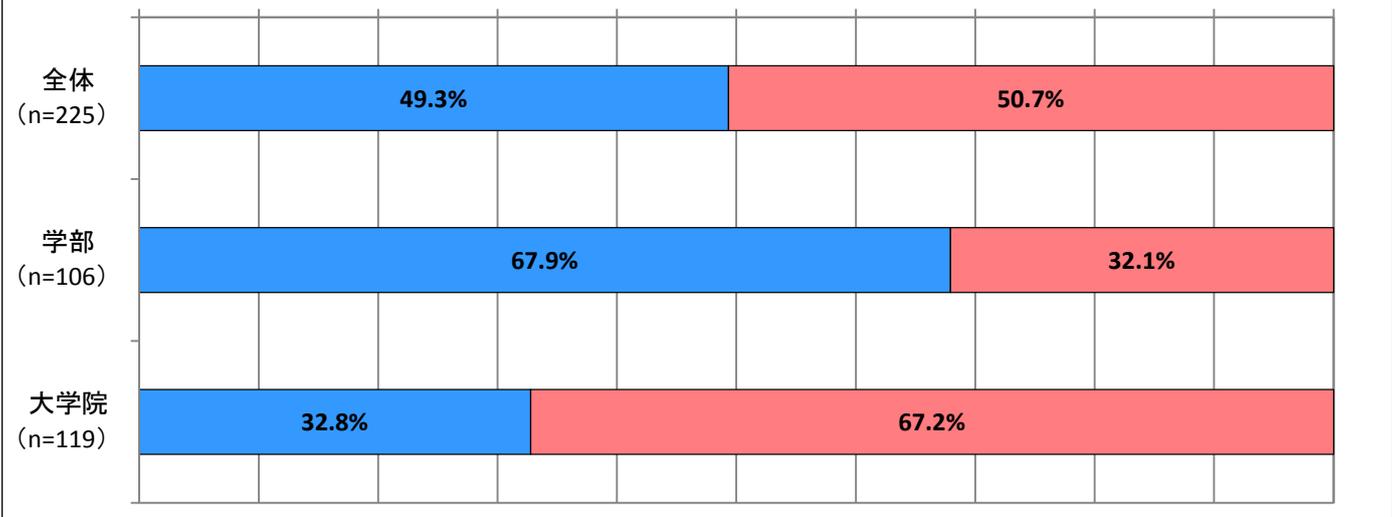
上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	224 100.0%	31 13.8%	83 37.1%	85 37.9%	17 7.6%	8 3.6%
学部	105 100.0%	8 7.6%	38 36.2%	41 39.0%	12 11.4%	6 5.7%
大学院	119 100.0%	23 19.3%	45 37.8%	44 37.0%	5 4.2%	2 1.7%



Q15.本コースの授業に対して、学生のあなたが評価を実施したことがありますか。

上段:人数 下段:%	全体	はい	いいえ
全体	225 100.0%	111 49.3%	114 50.7%
学部	106 100.0%	72 67.9%	34 32.1%
大学院	119 100.0%	39 32.8%	80 67.2%

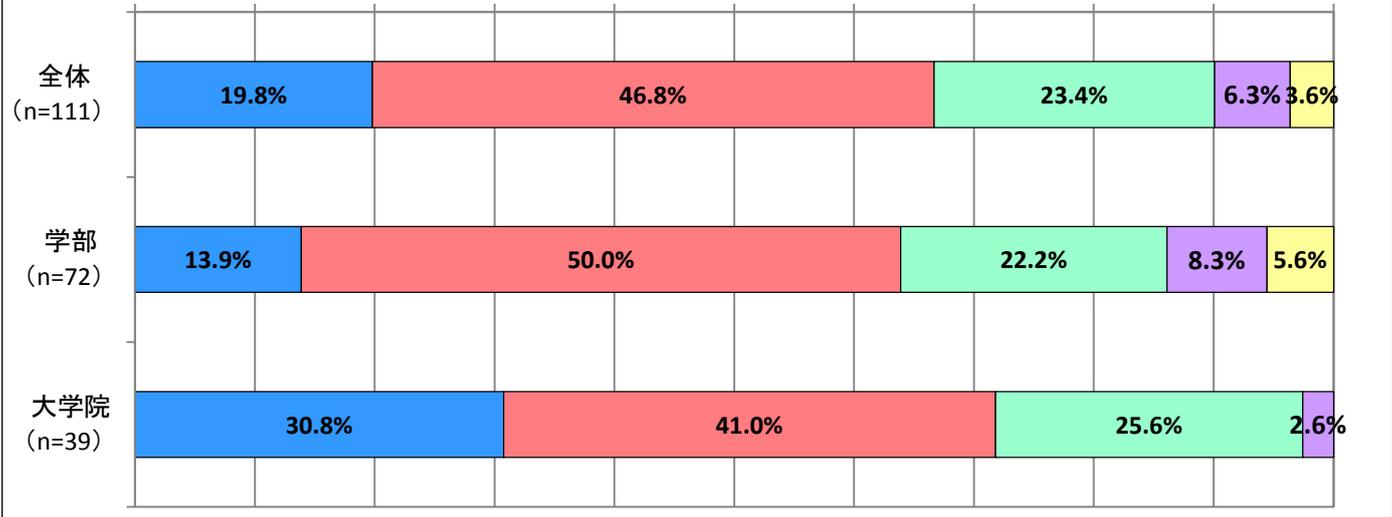
Q15. 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



Q16.Q15で「1. はい」と答えた人にお聞きします。学生が実施した授業評価は授業の改善に活用されていると思いますか。

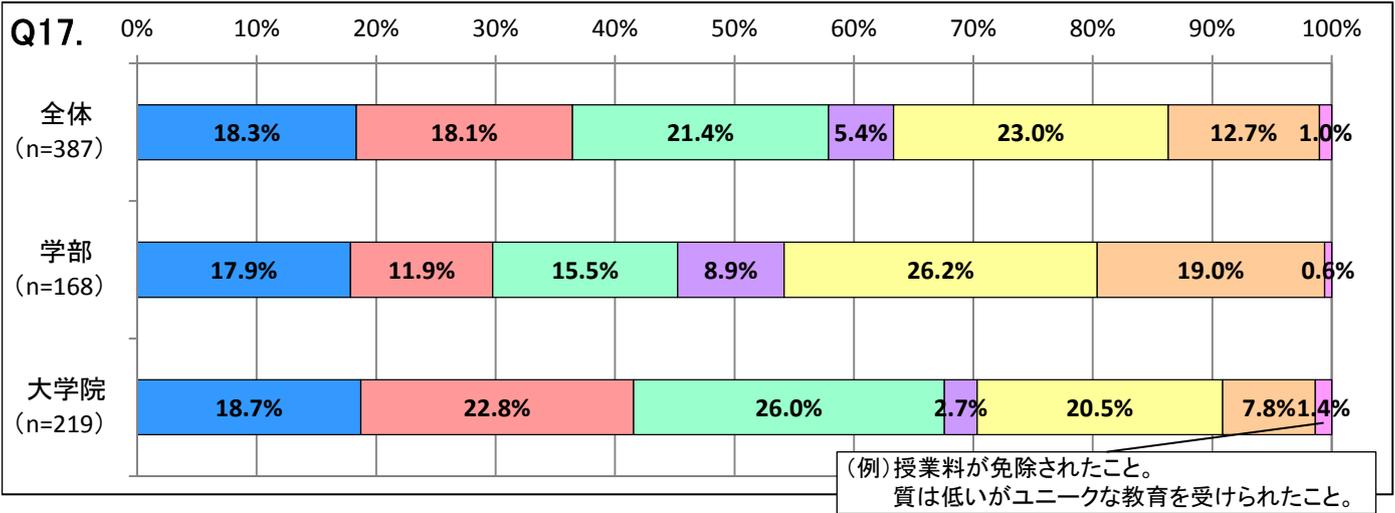
上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	111 100.0%	22 19.8%	52 46.8%	26 23.4%	7 6.3%	4 3.6%
学部	72 100.0%	10 13.9%	36 50.0%	16 22.2%	6 8.3%	4 5.6%
大学院	39 100.0%	12 30.8%	16 41.0%	10 25.6%	1 2.6%	0 0.0%

Q16. 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



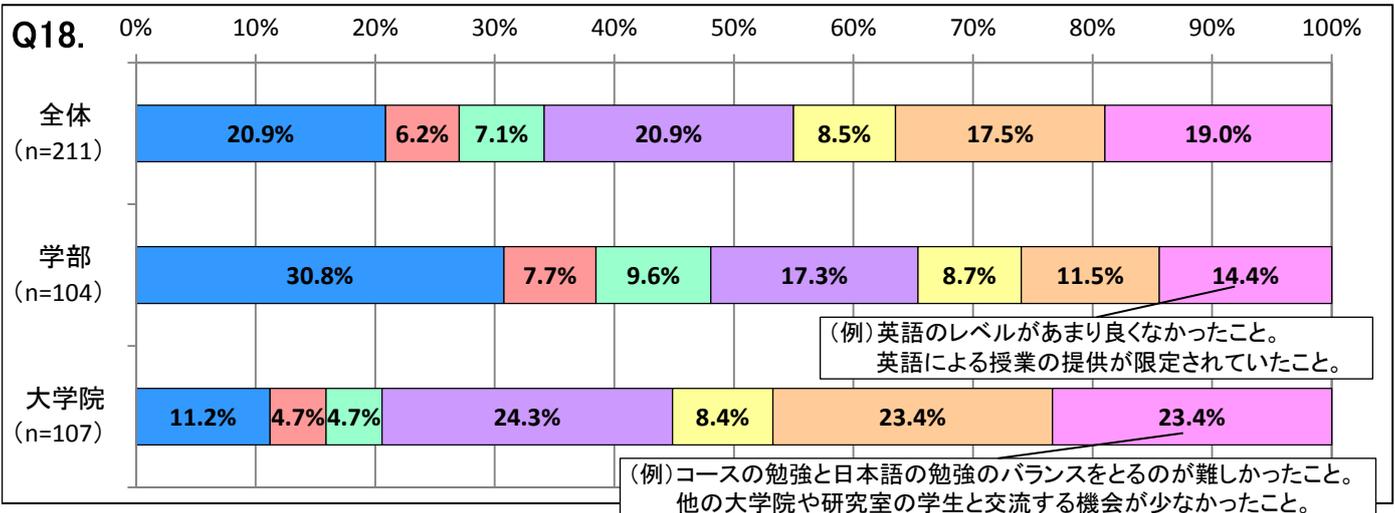
Q17.本コースに留学して良かったことは何ですか。(2つまで複数回答可)

上段:人数 下段:%	全体	質の高い教育を受けられたこと	質の高い研究が実施できたこと	国際的な教育研究活動実績を有する教員からの指導を受けることができたこと	日本で働く、もしくは日本企業に就職する見通しができること	国際的な人脈や国際的な考え方を身につけることができたこと	日本語が習得できたこと	その他
全体	387	71	70	83	21	89	49	4
	100.0%	18.3%	18.1%	21.4%	5.4%	23.0%	12.7%	1.0%
学部	168	30	20	26	15	44	32	1
	100.0%	17.9%	11.9%	15.5%	8.9%	26.2%	19.0%	0.6%
大学院	219	41	50	57	6	45	17	3
	100.0%	18.7%	22.8%	26.0%	2.7%	20.5%	7.8%	1.4%



Q18.本コースに留学して良くなかったことは何ですか。(2つまで複数回答可)

上段:人数 下段:%	全体	質の高い教育を受けられなかったこと	質の高い研究が実施できなかったこと	国際的な教育研究活動実績を有する教員からの指導を受けることができなかったこと	日本で働く、もしくは日本企業に就職する見通しができなかったこと	国際的な人脈や国際的な考え方を身につけることができなかったこと	日本語が習得できなかったこと	その他
全体	211	44	13	15	44	18	37	40
	100.0%	20.9%	6.2%	7.1%	20.9%	8.5%	17.5%	19.0%
学部	104	32	8	10	18	9	12	15
	100.0%	30.8%	7.7%	9.6%	17.3%	8.7%	11.5%	14.4%
大学院	107	12	5	5	26	9	25	25
	100.0%	11.2%	4.7%	4.7%	24.3%	8.4%	23.4%	23.4%



Q19.英語による授業のみで学位が取得できるコースについて、Q14～Q18の回答理由や特に思ったことがあれば自由に記入してください。

主な意見

○優れた点等

1	世界的な非常に優れたコースである。
2	非常に専門的であり、留学生としてほぼ満足している。
3	私の国では受けられなかったような質の高い教育を受けている。
4	教員、施設、スタッフや研究ツールは非常に良い。
5	日本の高い質の教育を受けることができるため、本コースに参加することは非常に良い。英語を用いて効果的に教授、留学生や日本の友人とコミュニケーションできる。
6	日本人の講師や日本人の学生と一緒に英語で教えられるため、日本の大学にとっても良い手段だ。このコラボレーションによって留学生と知識や専門技術を共有する広いネットワークを構築できるので、日本の学生のためにも役立つ。
7	本コースによって、世界中の多くの学生が日本の大学に入学し、日本語、文化や宗教を知る機会を得られ、更に、日本人学生が英語で会話をする機会を持つことにも役立つ。平和な教育環境において学習することは私のような留学生にとってすばらしい機会である。
8	本コースは世界中の異なる地域から集まる学生を一体化するのに非常に有効だ。それぞれの国での異なる経験に基づく知識は、異なる経験をもたらし、思考、知識や技術が学生間で共有される。
9	本コースは有効性がありありがたい。日本の学位は日本で就職を希望する場合に良い。もし日本語だけで教えられるなら、日本語能力試験がN3レベルなので、日本の大学に入学することはできなかつただろう。
10	授業内容に対する意見や大学生活で直面する問題などに関して、大学は定期的に確認してくれる。これは学生と教授の間の良い意思疎通の方法であり、私たちの意見が考慮されておりすばらしい。

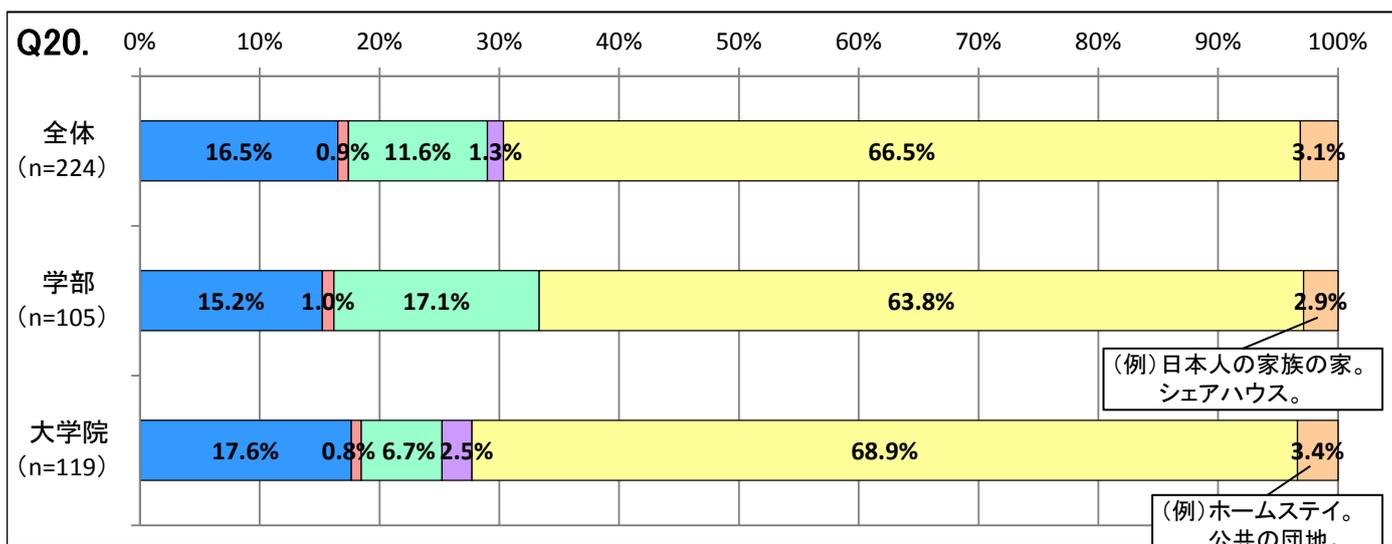
○不十分な点・改善点等

1	英語が母国語でない教授の授業の質が疑わしい場合がある。
2	どんなコース、授業、ゼミや文書でも英語の改善が必要だ。
3	多くの研究セミナーが開催されるが、英語で行われるのは少ない。
4	英語による授業をより多く開設し、選択の幅を広めるべきだ。
5	単位数は同じだが英語による授業の内容は日本語の授業の内容ほど良くない。
6	コースはより国際的に互換性を持たせる必要があり、より国際的な先生や教授がいればありがたい。
7	教育のシステムは世界クラスなのだから、単位互換システムも国際通用性を高めるべきだ。
8	カリキュラムを国際化するのではなく、ただ教育言語を変更するだけでは成功しない。
9	日本の大学に入学するために、日本語試験（レベルN2）に合格することを導入すれば良い。
10	留学生に、入学前に大学で日本語を学ぶ期間を設ける方が良い。
11	コースに入りたい日本人の学生のためのしっかりと英語試験を導入すれば良い。
12	英語授業のみを受講した場合、日本で仕事を見つけるのは難しい。
13	日本国内での就職はやはり日本語力が必要で、英語だけでは難しいが、普通の英語での学習も大変で、日本語を学習する余裕があまりない。
14	奨学金を得られる可能性があることをよりPRすれば、一層多くの外国人学生が、日本への留学に興味を持つ。
15	開発途上国からの学生にとって、日本の大学の学費を払うのは難しいため、勉学中に財政的な問題に直面する。
16	国際的なプログラムではあるが、国際的には非常に狭く、アジア人ではない学生が少ない。コース内容が多く国にとって魅力的でないか、レベルに合わせて構成されていないのかもしれない。
17	リーダーシップに対する教育とスポーツを推進する必要がある。ただ学習して家に帰るだけなら学校は退屈になりがちなので、より面白い活動を行う必要がある。
18	授業では、講義を聞くことやノートをとることより、学生へのインプットや課題解決力を重視すべきだ。
19	アウトプット能力やクリティカル・シンキングに関する授業をより増やしてほしい。授業でより議論して、意見の交換や日本人学生との交流ができれば良い。
20	最終的な成績評価が期末テストや最終的な小論文にだけ依存するのは合理的でない。

【留学生のための生活・就学環境について】

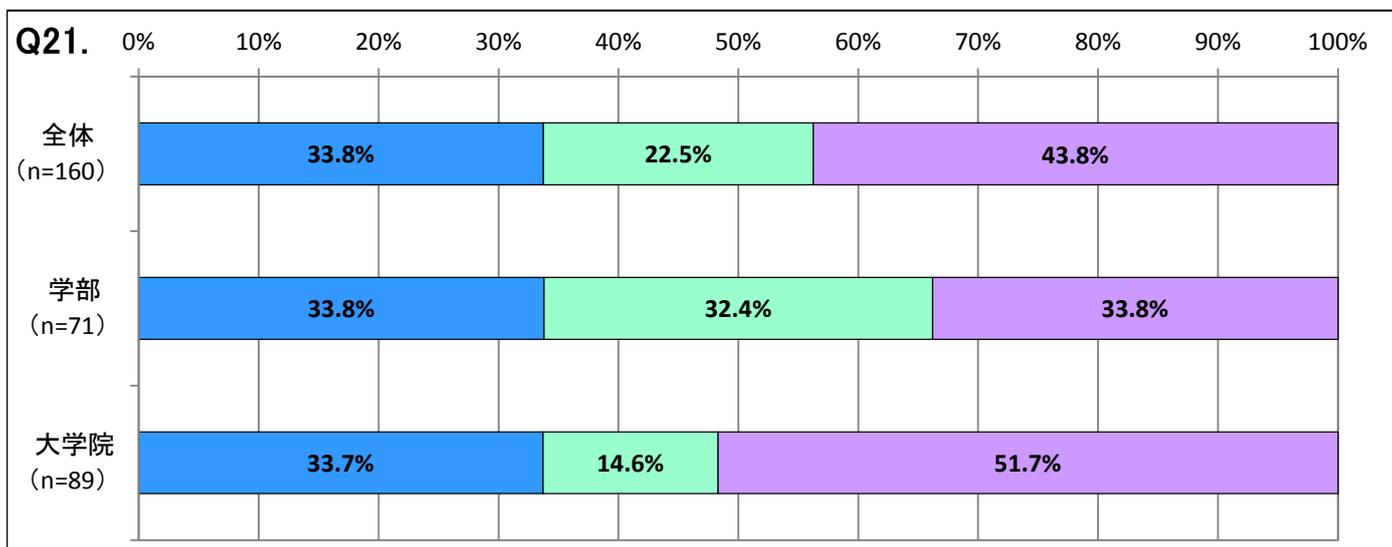
Q20.現在、どのような宿舎に住んでいますか。

上段:人数 下段:%	全体	大学の留学生 専用宿舎	大学の日本人学生 専用宿舎	大学の日本人学生 と留学生の 混住型宿舎	地方公共団体等の 公的機関の 留学生宿舎	民間のアパート・ マンション	その他
全体	224 100.0%	37 16.5%	2 0.9%	26 11.6%	3 1.3%	149 66.5%	7 3.1%
学部	105 100.0%	16 15.2%	1 1.0%	18 17.1%	0 0.0%	67 63.8%	3 2.9%
大学院	119 100.0%	21 17.6%	1 0.8%	8 6.7%	3 2.5%	82 68.9%	4 3.4%



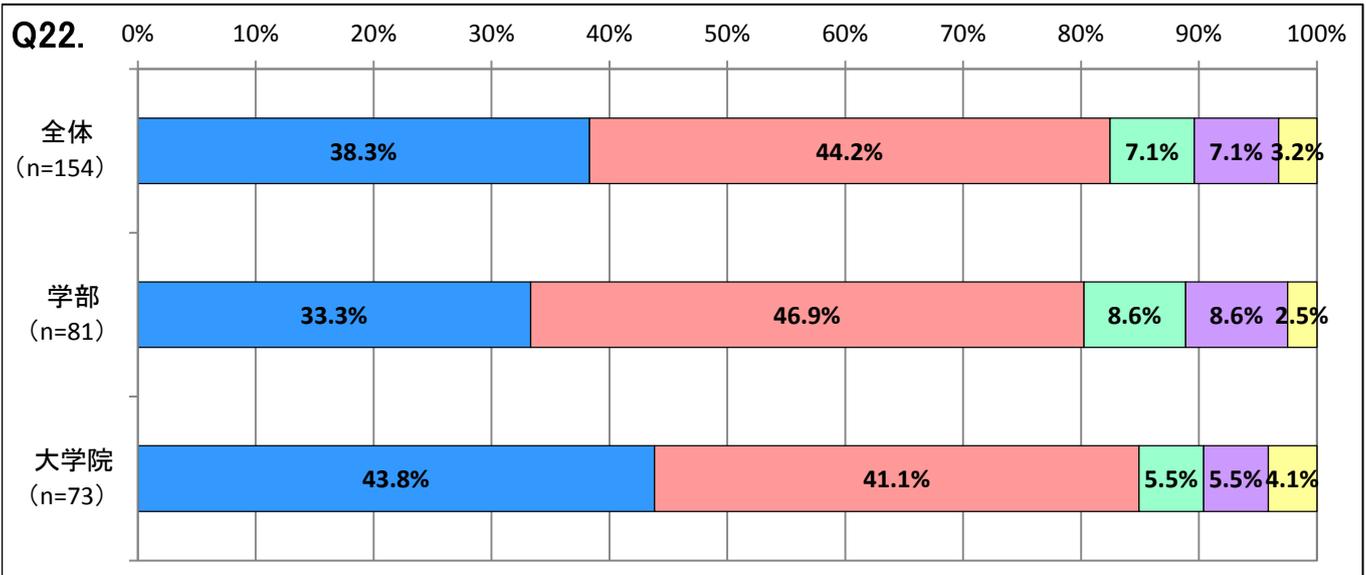
Q21.現在、大学の宿舎に住んでいない人にお聞きします。日本に来てからどのような大学の宿舎に住んだことがありますか。

上段:人数 下段:%	全体	大学の留学生専用宿舎	大学の日本人学生専用宿舎	大学の日本人学生と留学生の混住型宿舎	大学の宿舎に住んだことがない
全体	160 100.0%	54 33.8%	0 0.0%	36 22.5%	70 43.8%
学部	71 100.0%	24 33.8%	0 0.0%	23 32.4%	24 33.8%
大学院	89 100.0%	30 33.7%	0 0.0%	13 14.6%	46 51.7%



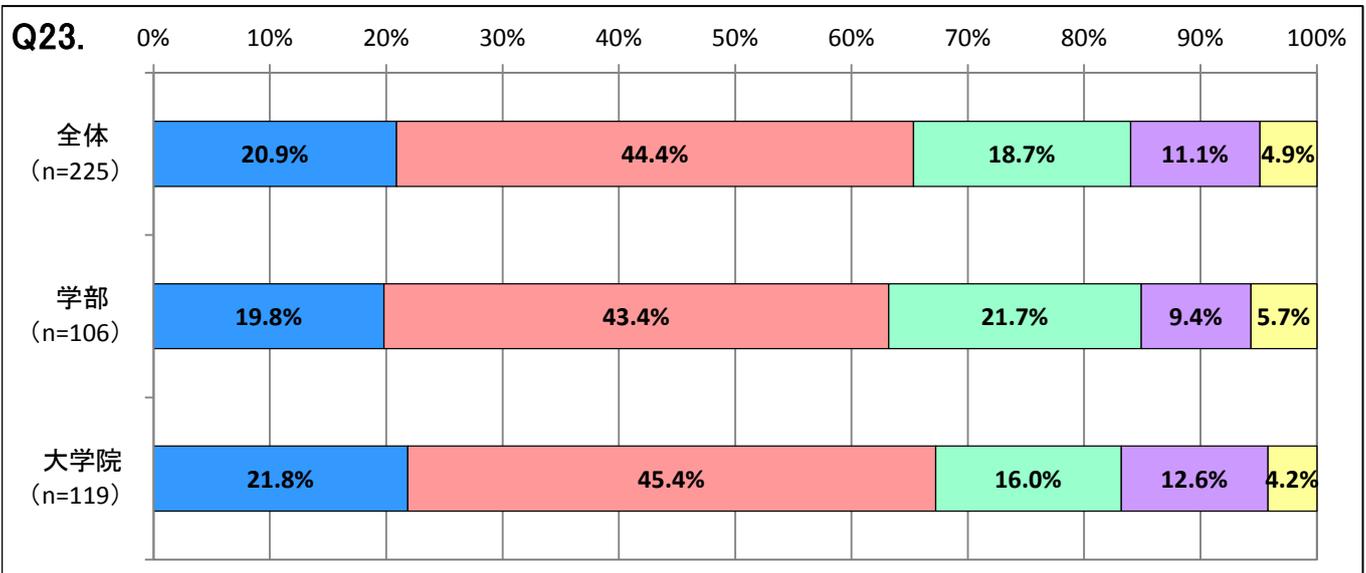
Q22.大学の宿舎に住んだことがある人にお聞きます。大学の宿舎について、設備や家賃等の住環境は充実していると思いますか。

上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	154	59	68	11	11	5
	100.0%	38.3%	44.2%	7.1%	7.1%	3.2%
学部	81	27	38	7	7	2
	100.0%	33.3%	46.9%	8.6%	8.6%	2.5%
大学院	73	32	30	4	4	3
	100.0%	43.8%	41.1%	5.5%	5.5%	4.1%



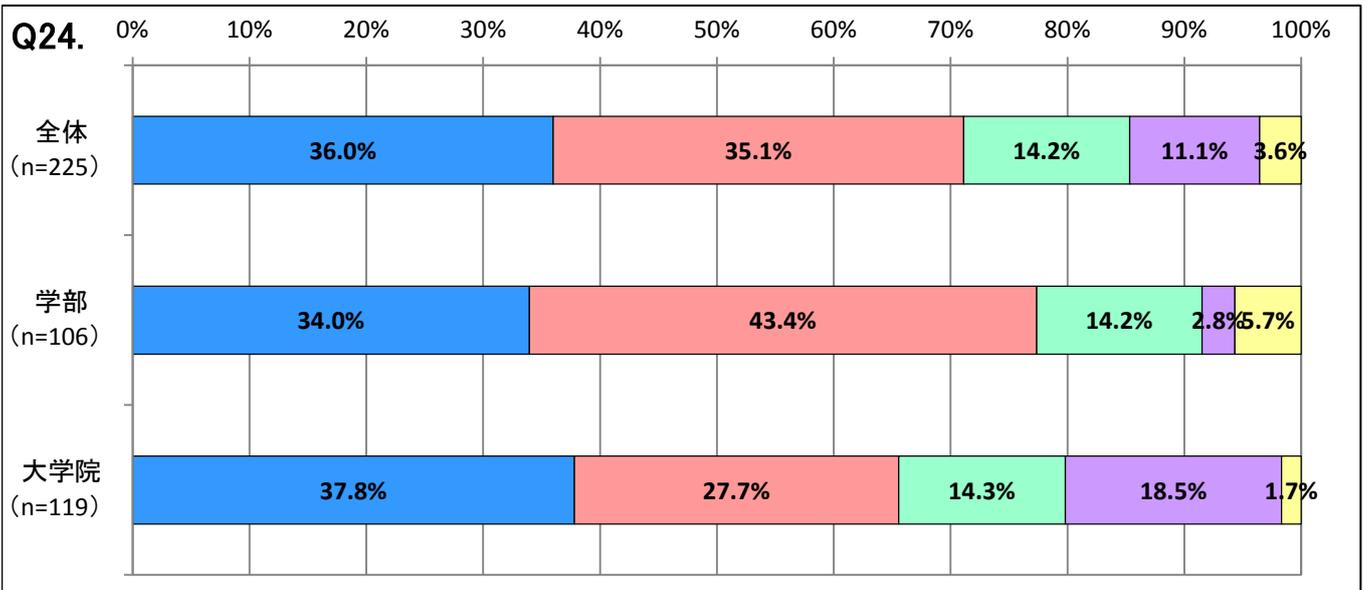
Q23.在籍している日本の大学の学内文書の英語化は進んでいると思いますか。

上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	225	47	100	42	25	11
	100.0%	20.9%	44.4%	18.7%	11.1%	4.9%
学部	106	21	46	23	10	6
	100.0%	19.8%	43.4%	21.7%	9.4%	5.7%
大学院	119	26	54	19	15	5
	100.0%	21.8%	45.4%	16.0%	12.6%	4.2%



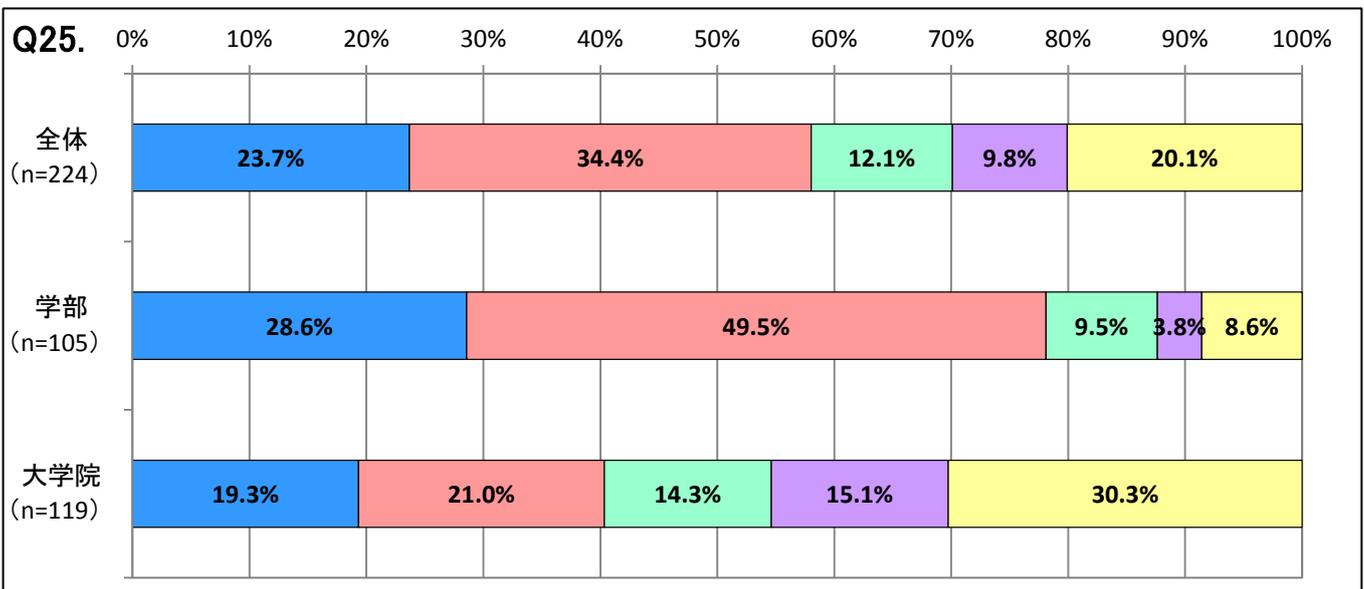
Q24.生活面における学内外での諸手続きについて、在籍している日本の大学からのサポートは充実していると思いますか。

上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	225	81	79	32	25	8
	100.0%	36.0%	35.1%	14.2%	11.1%	3.6%
学部	106	36	46	15	3	6
	100.0%	34.0%	43.4%	14.2%	2.8%	5.7%
大学院	119	45	33	17	22	2
	100.0%	37.8%	27.7%	14.3%	18.5%	1.7%



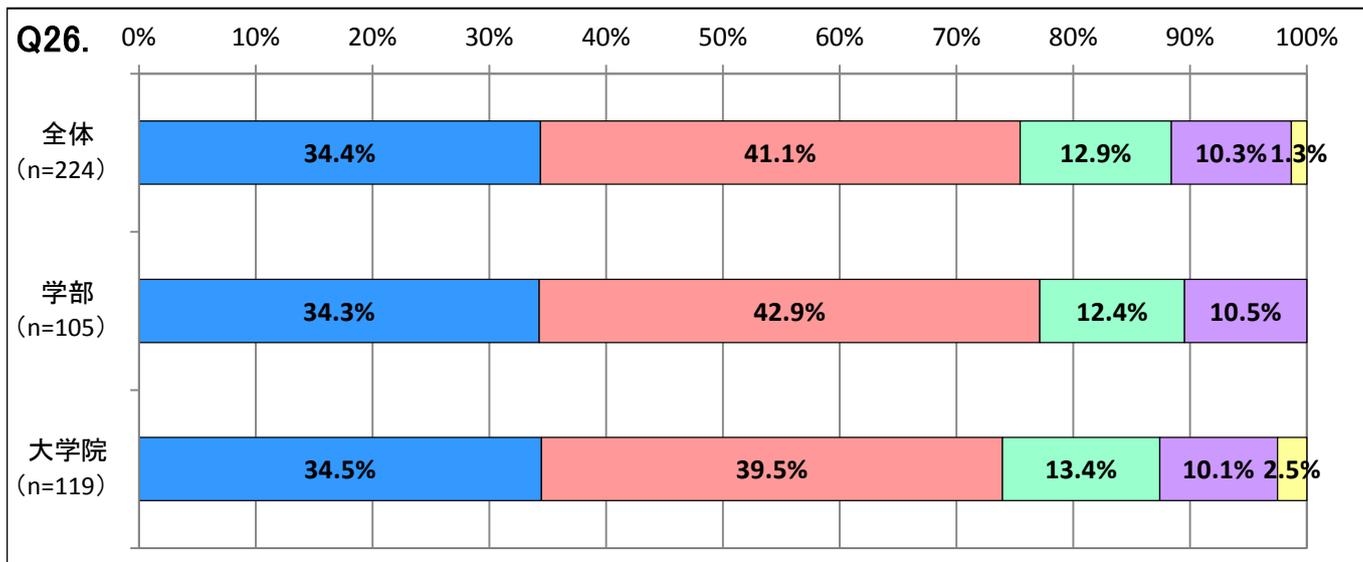
Q25.在籍している日本の大学からの奨学金等の経済的支援は充実していると思いますか。

上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	224	53	77	27	22	45
	100.0%	23.7%	34.4%	12.1%	9.8%	20.1%
学部	105	30	52	10	4	9
	100.0%	28.6%	49.5%	9.5%	3.8%	8.6%
大学院	119	23	25	17	18	36
	100.0%	19.3%	21.0%	14.3%	15.1%	30.3%



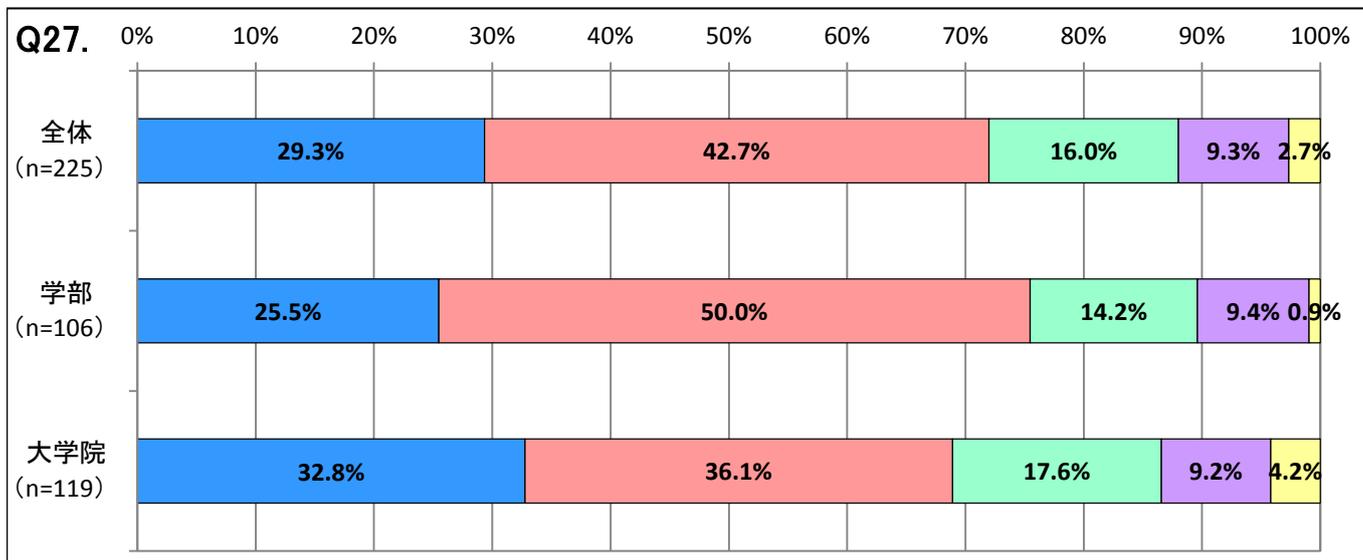
Q26.在籍している日本の大学において、日本語・日本文化に関する質の高い学習機会が提供されていると思いますか。

上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	224	77	92	29	23	3
	100.0%	34.4%	41.1%	12.9%	10.3%	1.3%
学部	105	36	45	13	11	0
	100.0%	34.3%	42.9%	12.4%	10.5%	0.0%
大学院	119	41	47	16	12	3
	100.0%	34.5%	39.5%	13.4%	10.1%	2.5%



Q27.就学面における相談員やティーチング・アシスタントによる在籍している日本の大学からのサポートは充実していると思いますか。

上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	225	66	96	36	21	6
	100.0%	29.3%	42.7%	16.0%	9.3%	2.7%
学部	106	27	53	15	10	1
	100.0%	25.5%	50.0%	14.2%	9.4%	0.9%
大学院	119	39	43	21	11	5
	100.0%	32.8%	36.1%	17.6%	9.2%	4.2%



**Q28.Q8又はQ11で「日本で働く、もしくは日本企業に就職したかったため」と答えた人にお聞きします。
在籍している日本の大学において、日本で働く、もしくは日本企業に就職するためのインターン
シップや情報提供の機会は充実していると思いますか。**

上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	51 100.0%	5 9.8%	18 35.3%	18 35.3%	10 19.6%	0 0.0%
学部	26 100.0%	3 11.5%	9 34.6%	10 38.5%	4 15.4%	0 0.0%
大学院	25 100.0%	2 8.0%	9 36.0%	8 32.0%	6 24.0%	0 0.0%



Q29.留学生のための生活・就学環境について、Q22～Q28の回答理由や特に思ったことがあれば自由に記入してください。

主な意見

○優れた点等

1	24時間開館している図書館、予約により使用できる会議室、学部ごとの自習室、各建物の自動販売機やレストランなど設備が非常に良い。
2	日本の大学の生活や学習環境は、世界中の留学生にとって非常に健全である。外国人が留学するための機会をより増やしたほうが良い。
3	留学生向けのオフィスは、友好的で英語が上手く、いつも生活の問題を解決するのを手伝ってくれる。
4	職員が、多くの問題（プログラムの学習、奨学金の検索、言語、ビザ、個人的な問題やその他の問題）で我々を熱心にサポートしてくれる。
5	慣れるために時間はかかるかもしれないが、日本の生活は非常に快適だ。職員は非常に有能なので、問題に直面しても助けてくれる。当然、研究においても助かる。
6	私のような外国人にとって日本で暮らすのは非常に快適だ。日本語が上手くないにもかかわらず、日本人は常に礼儀正しくて、親しみやすく、快く助けてくれる。
7	母国と比較して、日本人は本当に信頼でき、非常に礼儀正しい。日本社会に関わって、非常に幸せだ。
8	研究に必要なツールを全て与えてくれ、外国人に優しいため、生活環境や教育環境は素晴らしい。
9	生活・就学環境は非常に多文化で、日本文化を良く理解できるようになった。
10	大学によって提供される無料の日本語クラスは非常に助かる。
11	留学生と日本人学生や他の人々との交流を支援する「学校訪問プログラム」や「ホストファミリー・プログラム」のような素晴らしいプログラムが多くある。

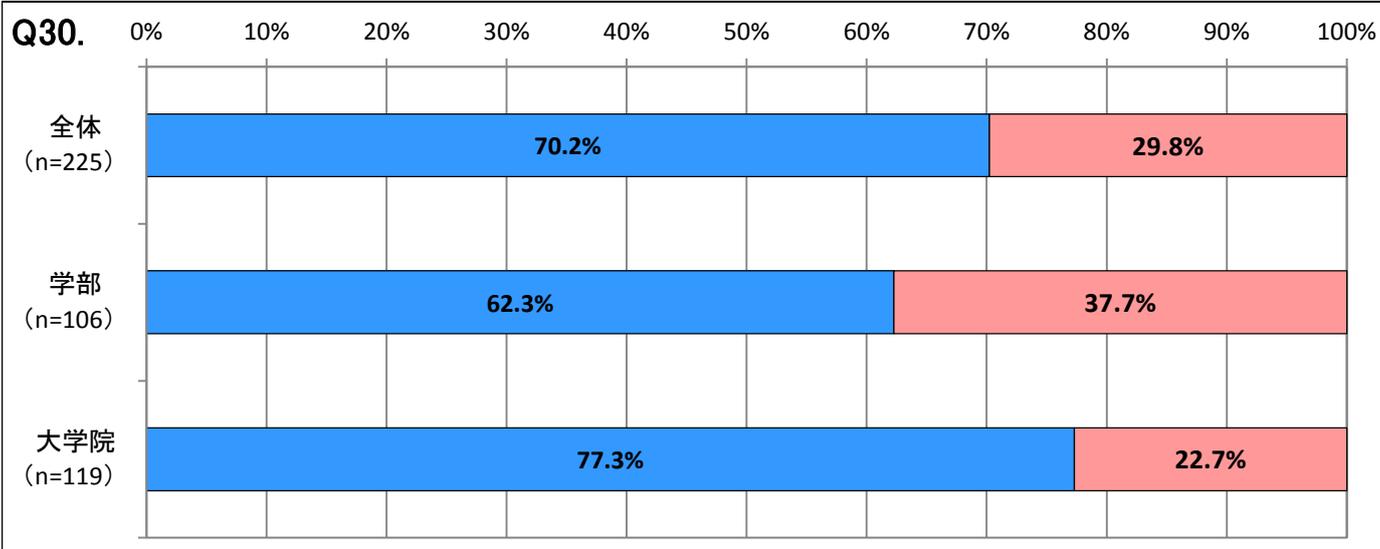
○不十分な点・改善点等

1	部屋の賃貸や奨学金の申請などの生活に関する情報がより必要だ。
2	日本でアパートを見つけるためには非常に複雑な手順が必要なため、入学する学生に住居について十分な説明をすべきだ。
3	寮の質を大いに改善する必要がある。
4	外国人だけの寮を提供する必要はないと思う。もっと日本人学生を入れてほしい。
5	大学の寮はかなり良く、安くて便利だが、ほとんどの寮は、1年間しか住めないため面倒だ。
6	ホームステイプログラムは、留学生に日本でのライフスタイルを体験させる機会を与えるために、より実施すべきだ。
7	研究室内や文書などについて、英語をより一般的に使ってほしい。
8	日本の生活費は非常に高いため、私費留学生にとって奨学金を含む経済的支援が非常に重要だ。
9	スケジュールの問題で日本語のクラスがとりづらい。
10	日本語の授業だけでなく、実際に日本文化を体験する活動を充実させてほしい。
11	日本文化と歴史のコースを提供してくれると良い。
12	研究室で、どの留学生にもそれぞれに日本人学生のカウンセラーがいると聞いたが、誰か知らない。そのため、そのシステムが機能しているのかわからない。
13	イスラム学生により多くのサポートを提供してほしい。礼拝室を要望しているがまだない。
14	ここ数年で留学生の為の環境は向上したという先輩は多いが、英語の話せる外国人教授が不足しており、まだ十分になじめていない。また、大部分の日本人教授は英語が話せず、留学生と日本人学生の共同作業が少なく、環境はまだ十分に国際化されていない。
15	日本人学生と外国人学生はお互いほとんど会わないため、アイデアや経験の交流が少ない。
16	大学はインターンシップや就職先を紹介しているが、ほとんどの場合、非常に高い日本語力を有することが条件だ。
17	日本で就職活動を希望する外国人留学生が多く在籍しているが、大学の留学生に対する支援や説明などが足りないため、多くの学生が不安を持っている。G30の留学生はまだ就職活動をしている先輩がいなかったり、少ない場合があるため、より不安が広がっている。大学側の配慮や留学生向けのプログラムが必要だ。

【日本の大学の海外事務所について】

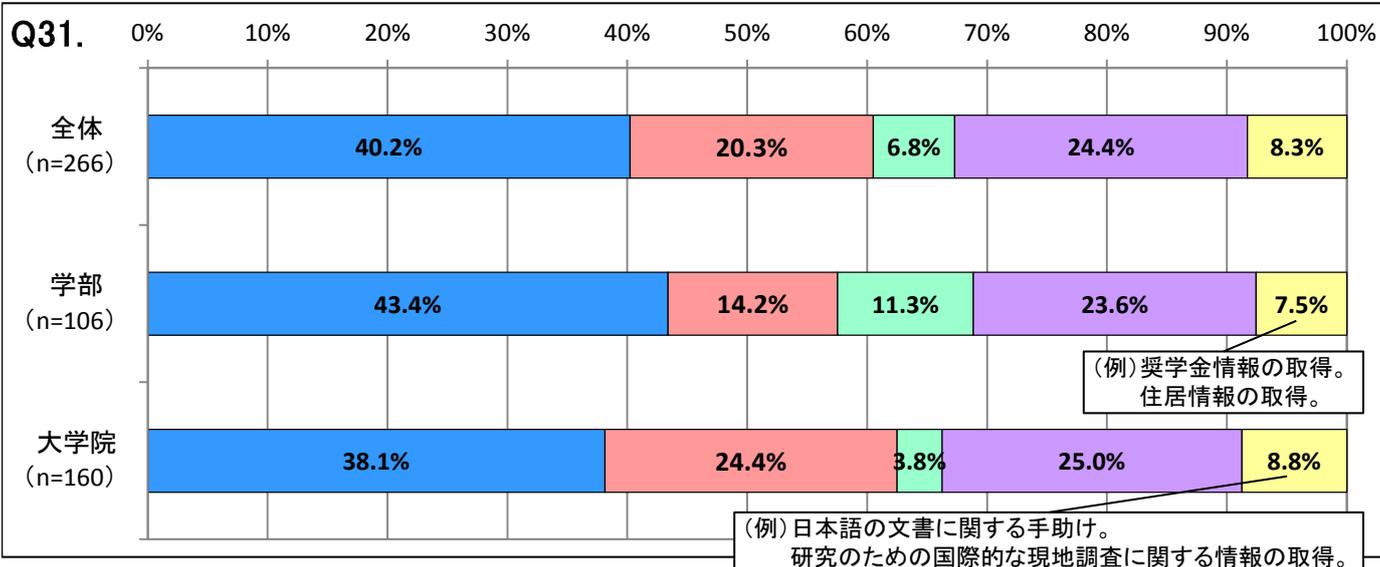
Q30.在籍している日本の大学の海外事務所を利用したことがありますか。

上段:人数 下段:%	全体	はい	いいえ
全体	225 100.0%	158 70.2%	67 29.8%
学部	106 100.0%	66 62.3%	40 37.7%
大学院	119 100.0%	92 77.3%	27 22.7%



Q31.Q30で「1. はい」と答えた人にお聞きます。海外事務所をどのように利用しましたか。(複数回答可)

上段:人数 下段:%	全体	留学情報の取得	留学説明会に参加	テレビ会議システムを活用した入学審査時の面接	渡日前の入学手続き	その他
全体	266 100.0%	107 40.2%	54 20.3%	18 6.8%	65 24.4%	22 8.3%
学部	106 100.0%	46 43.4%	15 14.2%	12 11.3%	25 23.6%	8 7.5%
大学院	160 100.0%	61 38.1%	39 24.4%	6 3.8%	40 25.0%	14 8.8%



Q32.日本の大学の海外事務所について、特に思ったことがあれば自由に記入してください。

主な意見

○優れた点等

1	初めてテレビ会議システムで入学審査の面接を受け、非常に良かった。
2	留学の際に、申請書を作成し、入学のための面接を受けた。また、幾つかの公的手続きで手伝ってくれた。
3	海外事務所から多くのサポートを受けたが、私のように初めて留学する学生にとって非常に良い。
4	海外事務所は留学生にすばらしいサポートをしてくれ、常に必要な情報を提供しており、非常に役に立つ。
5	コースに関する奨学金などの有益な情報を提供してくれており、留学生のための優れた活動を行っている。
6	英語が流暢だ。
7	職員は非常に親切で行動的である。
8	日本ででの生活に必要な手助けや助言をしてくれる。
9	職員は非常に素晴らしく、協力的である。正確な情報を教えてくれ、問題を解決するためにできる限りのことをしてくれる。
10	有能であり、非常に感謝している。

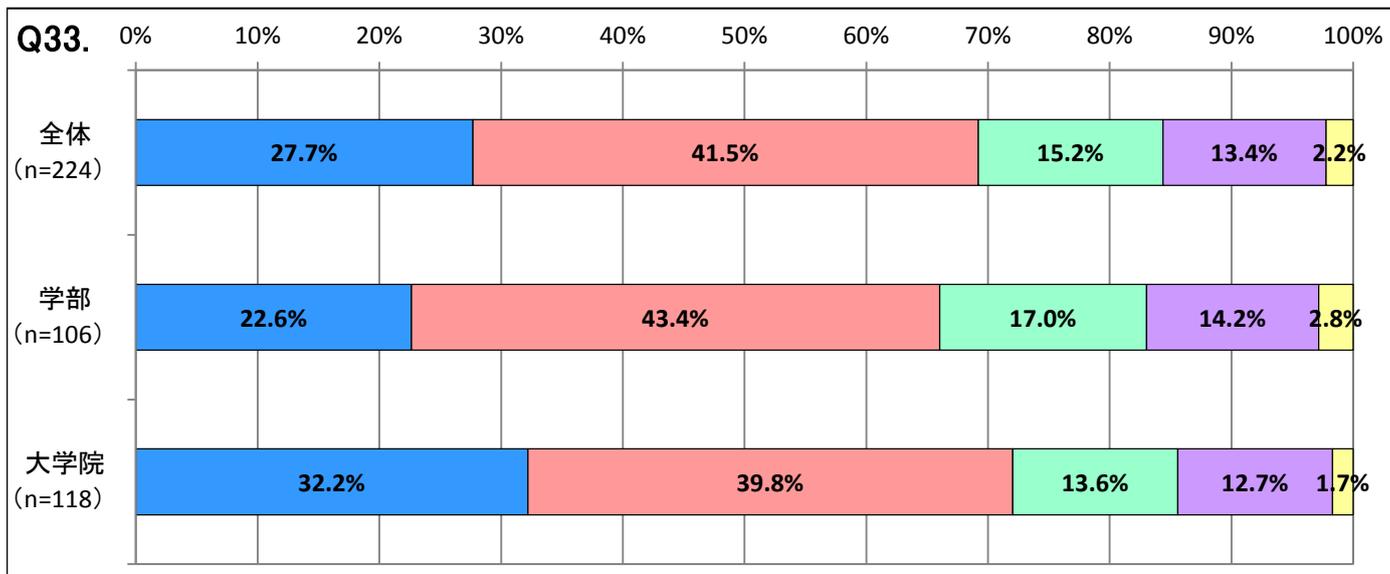
○不十分な点・改善点等

1	海外事務所の日本人の係員は親切に助けてくれたが、英語力が低かった。
2	スタッフは多少人員不足であると思う。
3	すばらしい仕事をしているが、英語を話すことができるスタッフの数を増やすことを提案する。
4	日本に来る前に、日本での住居についてよりサポートしてほしかった。
5	日本に来た後に海外事務所について知った。周知させるために何らかのソーシャルメディアを使ったほうが良い。
6	海外事務所がどこに、何のためにあるのか知らない。

【その他について】

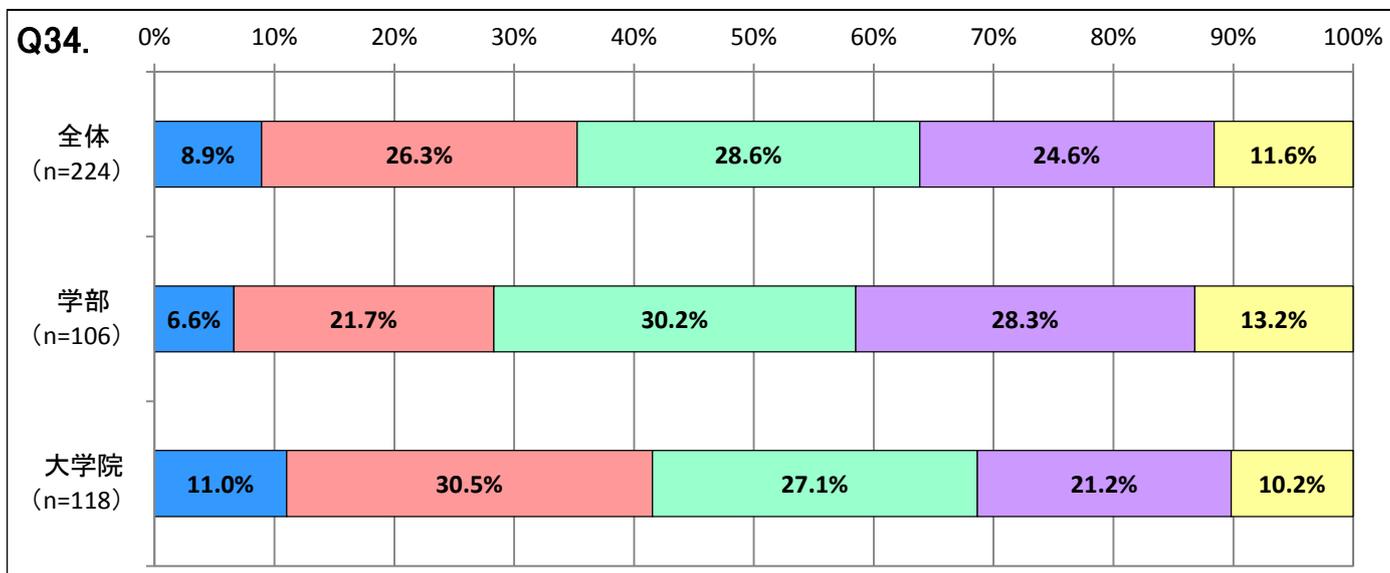
Q33.在籍している日本の大学において、日本人学生と留学生とが交流する機会が多く設けられていると思いますか。

上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	224	62	93	34	30	5
	100.0%	27.7%	41.5%	15.2%	13.4%	2.2%
学部	106	24	46	18	15	3
	100.0%	22.6%	43.4%	17.0%	14.2%	2.8%
大学院	118	38	47	16	15	2
	100.0%	32.2%	39.8%	13.6%	12.7%	1.7%



Q34.地域住民と留学生とが交流する機会が多く設けられていると思いますか。

上段:人数 下段:%	全体	非常にそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
全体	224	20	59	64	55	26
	100.0%	8.9%	26.3%	28.6%	24.6%	11.6%
学部	106	7	23	32	30	14
	100.0%	6.6%	21.7%	30.2%	28.3%	13.2%
大学院	118	13	36	32	25	12
	100.0%	11.0%	30.5%	27.1%	21.2%	10.2%



【全般的なご意見】

Q35.あなたが在籍している本コースについて、あなたの将来に向けてどう役立っているか、又はどのように改善してほしいかも含め、感想、ご意見を自由に記入してください。

主な意見

○優れた点等

1	教育期間、試験や評価などのコース手順が良く計画されており、規則的である。
2	多くの奨学金の機会、インターンシッププログラム、日本で職を見つけるためのセミナー、研究のための素晴らしい設備や清潔な環境がある。教授、職員や研究室メンバーは非常に親切だ。全体として満足している。
3	大学生の時から日本で研究したかったが、多くの大学が高い日本語力がないと学生を受け入れないため、他の場所での研究を考慮しなければならなかった。私の限られた日本語力で学べる機関を探していたので、G30ウェブサイトは本当に私にとって天の恵みだった。
4	長い間、日本の研究科に籍を置くことが夢だったが、当時、コースは全て日本語で教えられていて、私は日本語の能力に不安があった。英語のみで授業をするコースは私にとって素晴らしい機会、優れた学習と研究環境だけではなく、国際的な文化交流活動にも加わることができる。このプログラムが続き、更に将来拡大していくことを期待する。
5	英語の授業だけでなく、日本語の授業も履修することができるのが最大の良い点だ。日本語の授業を履修することで、日本語が学習でき、日本人との交流する機会も増えるため、非常に良いコースだ。
6	全体として、プログラムに非常に満足している。大学は、英語によるサポートやアドバイス、そして日本語と日本文化を学ぶ機会を与えてくれる。研究は質が高く、研究室は非常に国際的で、会議は英語で行われ、全てのメンバーが英語で会話できる。これは、この大学に来て、落ちついて生活し、ハイレベルな指導を受けることを楽ししてくれた。
7	日本の大学で日本人学生だけでなく、世界各地から来た留学生とも一緒に英語による授業を受けて、専門に関する知識技術を学ぶことができる。また、視野が広がって、国際的な考え方ができるようになった。
8	様々な国の高いスキルを持つ教授がいて非常に興味深いプログラムだ。本プログラムや大学で得た知識で、卒業後に専門的な仕事を見つけることができる。
9	日本語は得意でないが、英語で学び、研究することができた。教授は専門分野において非常に優れていて、留学生に非常に親切だ。英語と専門知識において大きく前進できた。
10	初めのうちは大変だったが、このプログラムに入って非常に良かった。優れた教育を受け、多くの素晴らしい人に出会い、言語を学んだことは非常に重要である。私は日本で研究を続け、また、キャリアを積むために、日本語を上達させたい。
11	G30のコースで高等教育を続けることができ本当にうれしい。知識を得るだけでなく、英語と日本語のスキルも向上した。国際的なネットワークと友人を作るのに役立ち、日本で学習し、生活できてうれしい。学習、研究や国際的なネットワークでの経験が、将来私を専門的な面で支えてくれることを期待している。
12	G30で留学生を日本に連れて来るという考えは素晴らしい。私は日本が最も素晴らしい場所の1つであると思っている。研究作業のためのより簡単なコミュニケーションだけでなく、講義の全ては、経験豊かな講師によって英語でなされる。私にとって、学習や研究のために日本に来ることは、大きなモチベーションだった。
13	日本のプログラムは発展途上国の学生にとって優れた印象があり、良質な教育が与えられており、全てが学生にとって十分だ。知識を得るだけでなく、グローバルに友人を得ることができ、非常に有益である。
14	科学、研究、イノベーションで世界的に有名な日本の大学で、英語を介して学習することは、私にとって大きな恩恵だった。本コースで学習することは、「刺激的」で「挑戦的」だ。私は科学と研究が未熟な段階にある発展途上国の出身なので、国の研究に資するためにここで得られる知識と技術を使用したい。
15	私は母国の政府職員である。本コースは母国の発展のために非常に役に立つと思う。本コースや日本で得た知識と経験を私の国で実際に移すことができる。
16	日本の大学に入学するという貴重な機会を得られて、非常に幸せで満足している。日本に来て、世界中に友人ができて、文化と同様に社会経済の違いを理解したことは、私を向上させ、母国では得られない多くの知識を大学で得た。大学が教育的な環境を提供する仕組みが続いていくことを願う。
17	本事業に本当に感謝している。この2年の間に、英語力と日本語力を向上させており、キャリアに役立つと信じている。事務所は日本で学習している間、文書の記入、奨学金に関する情報の提供やその他の問題について、本当に支援し助けてくれた。日本で素晴らしい教育と研究技術の進歩、環境を享受しており、母国と比較しても本当に満足だ。クラスで留学生に囲まれると同時にクラスの外で日本人に囲まれる環境は、私の視野と考え方を非常に広げた。本事業が更なる留学生の増加に繋がり、加えて学習へのモチベーションを上げるために奨学金が保証されるよう、政府による支援が続いてほしい。

○不十分な点・改善点等

1	英語でより多くの授業を提供してほしい。
2	英語の話せる国際的な教員を雇うか、教授を英語で授業ができるように再訓練すべきだ。
3	改善するための最も良い方法は、流暢な英語を話すことができる大学職員をおくことだ。ほとんどの場合、G30の問題を担当すると思われる大学職員に対しても日本語を使っているが、完全な英語教育の要件には、学生対応等が英語でなされることも含む。
4	学生はそれぞれ異なる背景と教育制度の出身なので、コースカリキュラムをより包括的にするほうが良い。
5	元の大学でとったIBやAPの単位が互換できなかった。また、交換留学の間に得た単位は、必修単位に互換できないため、交換留学を望む多くの学生は卒業までに余分な年数がかかる。
6	修士課程は、日本で働きたい、又は、学位を取る間日本で暮らしてみたい人々のために確かに役に立つが、博士課程で研究を続けたいと思う人々にとって、学術的に十分に挑戦的でない。
7	法律分野は、言葉自体が特殊なため留学生には難しいかもしれないが、せっかく日本に来たので日本の法律をより知りたい。しかし、現在のコースでは日本に関する法律の授業がほとんどないため、今後、より日本の法律の授業を増やしてほしい。
8	翻訳の勉強のための部局がなく、翻訳を専門に扱っている教授がいない。多くの人々の関心のあるポイントだと思うが、残念なことに翻訳の部局を作るような計画は予定されていない。
9	授業内容が完全に英語であっても、研究室の主要な教育言語は日本語であり、研究室の会議や議論は全て日本語だ。日本に来る前に、限られた日本語の知識しかなく、最初の数ヶ月は非常に厳しかった。交流の主な言語として英語の使用を開始すれば、それはG30プログラムの留学生を向上させると思う。
10	日本への留学生に更に違いと魅力を与えるには、日本の大学生が英語スキルを習得することだ。日本語を学ぶことが留学生の責任であるということは分かっているが、今日の世界が非常に競争的になっており、卓越するためには、外国語として英語のスキルを身につけることは非常に重要だ。したがって、日本人学生がより留学生と交流すれば、英語を向上させることができ、そのうえ文化を学び、交流することができる。そのため、留学生と日本人学生の更なる交流を促進し、英語に触れさせるような対策をとってほしい。
11	日本の大学に申し込む大きな理由は、言語を学ぶ機会を得ることだが、通常、言語を学ぶことは重要であると思われていないため、日本語の授業のスケジュールや質は学位の学習と両立していない。もし、これを解決して、英語で学習すると同時に言語を学ぶ学生に優れた環境を提供するならば、多くの外国人学生が日本で学習することを選ぶだろう。
12	日本文化、歴史や言語について詳しく知りたいので、日本の社会的、文化的な情勢に関してのコースがあれば、非常にありがたい。留学生は日本についての知識と体験を得る必要がある。
13	日本に来る前に、最小限の額を供給することができる奨学金があると本当に役に立つ。G30学生の奨学金の支援が少し変われば、より多くの外国人学生が日本に留学しやすくなる。
14	未成年の非日本人の学生が、自分だけで家を賃貸し預金口座を開くことは、本当に不便なので、そういったプレッシャーなしで大学生活を楽しむことができるように、大学ができる限り新入生を助けてほしい。
15	日本でのインターンシップについてのより多くの情報を提供してほしい。
16	大学が全ての留学生に英語で就職説明会をしてほしい。
17	留学生が日本で仕事を見つけるためにより支援すべきだ。現在、あまり支援がないため、多くの会社は日本語が堪能な学生を雇うだけだ。
18	日本で就職するなら、やはり英語より日本語のほうが重要視されるため、自分の学習したものと就職にずれがでる。
19	ほとんどの学生は東アジア出身なので、欧米人の留学生をより増やすと、多角的な文化交流を促進できるようになる。
20	出身国は秋入学であり、日本でも秋入学の募集で入学したため、時間の短縮になり助かったが、一般の日本人学生と入学時期が違い授業も別々なので、あまり交流する機会がない。
21	留学生と地元の学生のためのパーティーや集まりが少ないので、毎月開催してほしい。大学はパーティーや集まりをほとんど企画しない。学生主催だけでなく大学主催でも行ってほしい。
22	この大学には、英語でのアカデミックなものがない。先生は英語を話さず、教材は低レベルだったりなかったりする。また、手助けしたり、ガイドする人もおらず、事務職員も英語を話さない。私はこのプログラムを変えたくて、現在頑張っている。誰もしようとしないので、多くの同窓生に話したり、変化させようと望んでいる。しかし、何かが変わるのは、私の卒業したかなり後だろう。
23	非常にプログラムに失望している。再び機会があるなら、英語フリーでない大学では学習しないだろう。大学の国際化を推進する多くの外国人学生と一部の教授が公式な会議で訴えや意見をしばしば提案したが、何も状況は改善されなかった。この5年でコースの質もあまり改善されなかった。物事が将来改善され、次世代の人々が私が受けたものより良い教育を受けることを望む。

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 事後評価
学生アンケート調査実施要領

平成 26 年 12 月 8 日
大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会評価部会

1. 目的

アンケート調査は、大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業に係る事後評価を実施するに当たり、本事業に関係する学生に対して実施し、その結果を事後評価のヒアリング調査の際の評価資料として取り扱うことを目的とする。

2. 実施主体

実施主体は、大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会評価部会（以下「評価部会」という。）とする。

3. 実施対象

アンケート調査の実施対象は、各採択大学において、本事業で開設された「英語による授業のみで学位が取得できるコース」に入学した学生（日本人学生を含む）のうち、アンケート調査実施時点で在籍している学生（学部生10名程度、大学院生10名程度）とする。

4. 実施方法

各採択大学から「学生アンケート調査対象者リスト」の提出を受け、当該リストに掲載された学生に対して、採択大学における事業の実施状況等についてのアンケートに対する回答を求め、大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会事務局（以下「事務局」という。）において集計する。

5. アンケート調査の設問

アンケート調査の設問は、評価部会において定める。

6. アンケート調査の進め方

- ①各採択大学は、「学生アンケート調査対象者リスト」として、実施対象となる学生の連絡先（メールアドレス）を事務局に提出する。
- ②事務局は、「学生アンケート調査対象者リスト」に掲載された実施対象となる学生に対して、メールを用いて設問を送付し、回答を依頼する。
- ③実施対象となる学生は、直接事務局に対して、メールを用いて回答を提出する。

7. アンケート調査実施時点

平成26年12月

8. 調査実施後

アンケート調査の結果を集計し、ヒアリング調査の際の評価に活用する。

また、調査結果については、採択大学の事業改善に資するため、記入した個人が特定されないよう処理を行った上で、採択大学に対し評価終了後に情報提供を行う。